

傳習館



東京同窓會會報

第10号 2010.1.1



平成 22 年度東京同窓會案内

よかやっかんも (第5弾)

趣味楽憂?

花咲か爺さん奮闘記

柳川弁うんちく帖 (ふなやき)

祇園守紋・越山もちの由来



—表紙写真の紹介—

表紙・表紙裏「田園の朝靄」

この写真はどちらも石橋敏男先生撮影の作品です。

「先生のコメント」

私の住まい（三漕郡大木町）の近くに春先に稀に朝靄がかかる事がある。そんな時は早速カメラを携え外に出てシャッターを切る。附近には平凡な景色しかないので、殆ど同じような、平凡な田舎の景色である。ただ、日輪が顔を覗かせているのが違うだけである。

石橋敏男先生は中学43回・昭和十年三月卒業の大先輩で且つ母校伝習館で昭和二十二年から昭和四十九年まで二十七年間の長きにわたり教壇に立たれました。（国語・教頭）

今年は九十二才になりますが、ますます矍鑠としてカメラをか
ついで東奔西走されています。

今も人生の先生です。

（以前、第8号の表紙も飾って頂きました）

第10号 2010.1.1

東京同窓会本部より

平成 22 年年頭の挨拶	会長 江崎 正直	2
修学旅行生との交流会		3
賛助金ご協力状況報告		4
賛助金振込票通信欄コメント		5
東京同窓会の歩み	副会長 松永 肅	6
東京同窓会決算収支報告		9
平成 22 年度同窓会総会のお知らせ		10

伝習館進路状況 10

先輩・後輩より

詩／柳川	中 41 高戸 顕隆	11
よかやっかんも (第 5 弾)	高 1 横山二三男	11
花咲か爺さん奮闘記	高 6 岡田 哲也	13
生きてゆく証—墨象との出会い	高 6 木村 峯子	15
はじめての東京	高 7 田中敬之助	16
修学旅行「課題別研修」をお手伝いして	高 8 樋口 誠佑	17
趣味楽憂?	高 10 永倉 素子	19
春の内房線を S L が走る	高 11 龍 勝	20
青春のパイプライン (授業篇)	高 18 福山 博彰	21

学年幹事より

35 年目のふくの会	高 5 田中禮二 古賀 弘	23
「三稜会」の報告	高 6 石橋 修	23
第 8 回卒同級会開催	高 8 樋口 誠佑	24
くっぞこ会	高 12 小野アケミ	25
なんしよる会	高 21 白谷 政則	25

ふるさと瓦版

柳川弁うんちく帖「ふなやき」		27
大木町の民話—こうじんさんのすみ		27
祇園守紋の由来		28
越山もちの由来		28
如意亭		29
やながわむかしばなし「六騎」		29
旧柳河藩内の神社の神門		30
やながわむかしばなし「あげまきのへこ」		30

新刊紹介

柳川市史 2 冊		31
やながわ人物伝		31

傳習館



東京同窓会報

東京同窓会本部より

平成二十二年年頭の挨拶

立花家を理解しよう

江崎正直

会員の皆さん！ 健やかに新年を迎えられたことと存じます。

去年は総会のない年だったので、纏まってやった行事は修学旅行生との交流会だけでした。去る9月15日、例年通り、早稲田のリーガ・ロイヤル・ホテルで盛大に挙行されました。先輩と後輩の対話で、進学・就職など、いろんな話が出ました。伝習館の生徒は真面目で、きちんとしているのはいいとして、積極性が欲しいと言うのが、先輩方の意見でした。

今年は総会の年です。会には講師を招いて有意義な講演を聞くのが通例となっています。会報も第10号であり、今年は例年と趣を異にした講演会を予定しています。

伝習館は筑後・柳川藩主・立花家が創立された学校です。さりながら、立花家について理解している人はそんなに多くありません。今回は立花家において第17代当主の宗鑑様を始め兄弟の方々にご登場願って、立花家の歴史、特に幕末以降について講演・座談会を開催したいと考えます。

明治維新を契機に全国270藩の藩侯は、東京（江戸）へ移住された方々が殆どで、地元に残られたのは、立花藩のほかは、山形県の酒田藩他数藩です。この機会に通常は聞けない秘話を期待しています。現在も立花家あつての柳川であります。単に由緒あるお庭や建物のみならず、立花さん自らレストランや土産店までやっておられ、観光客の誘致に努めておられます。又とない機会ですから、会員の皆さん！ 一人でも多く出席し、直接お話をお聞き下さい。

母校の方では昨夏「スーパーセミナー合宿」が九重星生ホテルで二泊三で日行われました。県立高校28校から選抜された170名の生徒が参加し、九大の先生から講義を受けました。伝習館からは13名参加しています。

賛助金は協賛者が少し増え、やっと全会員の10%になりました。同窓会で何をやるにしても、先立つ物はカネですから、一人でも多くの方に少しでも多く協賛していただきたいと思ひます。

今年は総会を中心に活気ある年にしたいので、皆さんのご協力をお願いします。

2009年度修学旅行生との交流会

平成 21 年 (2009 年) 9 月 15 日 (火) 時間 19:30 より
場所：リーガロイヤルホテル東京 3階「ロイヤルホール」

現役高校二年生が修学旅行で東京にやってきます。その際、二時間ほど、東京同窓会メンバー（以下卒業生）との交流会を催していて、私は今回3回目の参加をいたしました。

生徒からの質問に応じる形で、さぞや様々な質疑応答が繰り広げられると思いきや、毎回卒業生の独壇場にも思える展開です。とにかく生徒はおとなしい。いや、卒業生が元気すぎるのかもしれませんが。卒業生といつても、生徒にしてみれば祖父母の御歳の大御所の皆様がほとんどで、かなり緊張もしているのかもしれませんが。

さて、今回参加した現役大学生・20代・40代の交流会出席者の感想です。

- ・東京に出てきただけで威張らないで欲しい。
- ・昔と今は違います。今の若者を理解して参加していただきたい。
- ・おじ様たちの自分の語り場になっていたようで残念。
- ・1クラスに2人くらい現役の大学生がいればいいかと……。
- ・現実の厳しさより、夢を持てるような話をしていただきたい。

等でした。私も同感であります。多少違った感想では……

- ・どうしてみんな柳川弁でしゃべらんと？ 東京気取らんでよかとやなか？

う～ん、このご意見はごもっとも！

しかし、人生常に楽しい催しだけではありません。核家族であり接点のないお歳の大先輩の話聞くことは、生徒には我慢の時間でもあるでしょうが、何かしら感じることでできる貴重な時間であると思います。この交流会は、普段は接点のない年齢層との交流として、生徒には貴重な経験になるのではないのでしょうか。（大先輩によいしょ！）

さて、2010年10月の大同窓会は私の同期32回卒が幹事として準備を始めております。この会も、大先輩から卒業したての若者の世代を超えた大切な交流会かと思えます。違う時代を生きていても、「伝習館」という共通の話題があります。また、同級生との交流は懐かしく落ち着く時間でもあります。

世代別交流・同期交流を深めていただく素敵なお時間を演出いたします。2010年10月、どうぞ万障繰り合わせの上参加していただけますよう、お待ち申し上げます。

32回 守谷由佳 (旧 富重)

追伸

現役大学生さん、是非来年の修学旅行生との交流会に参加して下さいね。

交流会出席協力者

学生	59	51	50	45	39	36		32	31	30	28	24	20	18	14	13	12	10	7	6	5	4	3	高校2		
小柳真咲・大津花絵	川口 惇・山田雄貴	森田 和高	本村泰輝・西田大樹	大曲由起子	浦 裕美	大坪	姉崎ユカリ	一木良之介・森 昌伸	守谷由佳・境 和晃	大山 恵・井上	堤庄一郎	橋爪政男	與田博明	酒見和平	高巢和登	福山博彰	吉田節子・石橋俊一	原田万紗子	小野アケミ・滝口晴夫	永倉素子	田中敬之助	石橋 修・戸上軍治	松永 肅	梶島啓之・渡邊喜亮	酒井清行	江崎正直

【賛助金ご協力状況報告】

平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日まで

卒回	氏名
高2	諸藤繁樹
高2	古賀苦住
高2	田中豊子
高2	大橋貞夫
高2	上河京子
高2	徳原朔子
高2	北田島順次
高3	丸林啓子
高3	臼井ヒコ工
高3	村井タカ子
高3	大旗康文
高3	白井朗
高4	大久保淳子
高4	高須信治
高4	石橋安男
高4	梶島啓之
高4	山本瞳直
高5	今村直
高5	武田ヤエ子
高5	原タカ子
高5	宮川政實
高5	野口幹彦
高5	酒井弘子
高5	岸永洋子
高5	松永悦子
高6	井手由真
高6	井手由紀子
高6	増尾友子
高6	中村充嗣
高6	池田勝修
高6	石橋元也
高6	梅崎時子
高6	森島信子
高6	川賀祥子
高6	古賀賢一
高7	松村啓子
高7	中田啓子
高7	下田啓子
高7	大藪成人
高7	高田四郎
高7	浜野弘子
高8	木下清次
高8	市川玲子
高8	浜田勝郎
高8	大村泰生
高8	奥田武久
高8	海部章則
高8	池上藤則
高8	一色康子
高8	嶋本幸子
高8	高石順子
高8	龍敏之
高9	高口猛
高9	原田光紀
高9	檜橋悠紀
高9	高橋雅子
高10	江口武
高10	大瀧静夫
高10	井上紀子

卒回	氏名
高8	本木寅三郎
高9	北原久也
高9	堤泰充
高10	東辰子
高10	永倉素子
高13	尾田義昭
高15	小河良充
高18	小満生英二
高22	稲吉英実
高22	梅崎徳孝
高27	松藤肇茂
高28	吉開孝人
高30	古賀賢治
高37	野口泰博
協賛 1.5 口	
中55	古賀昭夫
女35	原ヒサ子
女46	古賀弘子
女47	板橋久子
高1	石橋哲夫
高3	酒井清行
高3	富重真一
高3	木村澄子
高4	水野圭介
高5	家入智恵子
高5	松尾久子
高6	白茂満三
高7	大津山砲道
高7	久良木弘邦
高10	石橋邦守
高11	樋口勝
高12	横山正和
高13	西雅治
高14	宮原修
高15	一木克子
高16	水澤昭子
高17	相浦邦憲
高19	酒井友実
高22	龍美代子
協賛 1 口	
中49	松尾淳
中50	田辺一彦
中50	三山心栄
中54	野口清二
中55	木下宗治
中55	馬場淳三郎
中55	吉弘尚正
女20	板井敏子
女31	跡部愛子
女33	木下チヲ
女41	五十嵐八千代
女42	富重信子
女42	山口トヨ
女42	遠藤美代子
女47	中島尚子
併女1	川上寿美子
高1	高石満之
高1	近藤紀彦
高2	池田国彦

卒回	氏名
女34	古賀弘子
女41	渋谷敏子
女42	三砂小治
女45	長崎和代
高1	江口国彦
高1	中野妙子
高2	吉村イツ
高2	井上和子
高2	石藤美弥子
高2	内崎知見
高3	志牟田徹
高3	西山彰
高3	廣松敏克
高4	高石敏男
高4	原勝子
高4	荒井健之輔
高5	江口政司
高5	中村千常
高5	中村義行
高6	小野家廣
高6	甲木康博
高6	田中稔
高6	西田房代
高6	古賀勇生
高7	龍弘道
高7	米永勝至
高8	後藤亨
高8	樋口誠祐
高8	川口融
高8	池田孝人
高8	遠藤武雄
高8	中川辰之助
高9	山下恒吉
高10	松藤俊正
高10	大村平人
高10	相浦竹年
高11	星野公代
高11	伊藤勝久
高11	鶴清三
高11	古賀敏之
高11	石橋秀男
高12	小野あけみ
高14	壇雅昭
高14	吉田節子
高18	十時理展
高20	石橋岩美
高24	山田直美
高27	江崎友大
高27	高橋圭介
高27	中村智恵子
高30	小野弘美
高38	梶島廣昭
協賛 2 口	
中47	田崎英敏
中53	浦川浪米
中56	松本一郎
高2	松平隆子
高2	河野健一郎
高3	柳澤一彦
高7	松永泰輔

卒回	氏名
協賛 25 口	
高2	江崎正直
協賛 15 口	
中41	高戸顕隆
協賛 10 口	
高3	福山諭
高6	木村峯子
高10	渡慶次侑
高11	池上滋子 (故池上勝之氏夫人)
高19	野口昇
協賛 7.5 口	
中54	武藤吉郎
協賛 5 口	
中47	徳永樹夫
中51	原次雄
女46	青木栄
高2	江崎洋二郎
高2	小野善睦
高3	新谷弘之
高4	新谷弘実
高5	福山富士枝
高5	岸栄洋
高5	松永肅
高5	田中禮二
高6	戸上軍治
高6	藤木信之
高6	荻島直記
高8	豊島黎子
高9	吉開ルリコ
高9	津留昇
高10	内山秀生
高10	原田智昭
高12	田中省三
高12	梅崎哲哉
高13	斉田宗生
高14	古賀清
高14	酒見和平
高17	三池孝道
高18	大津博
高18	福山博彰
高21	白谷正則
高23	竹内幸代
高34	柳内真里子
高40	梶島正司
協賛 4 口	
高17	跡部興志
協賛 3.5 口	
中52	大内礼三
協賛 3 口	
高7	田中健次
高7	田中敬之助
高8	永倉正彦
高8	永倉正彦
高33	町島和子
協賛 2.5 口	
中49	長崎哲夫
中53	高田泰一
中55	武藤徳一
中56	松本学

卒回	氏名
高11	秋永 栄子
高11	山崎 素明
高11	與田 広巳
高11	会田 道子
高11	城島 孝雄
高11	西田 孝行
高11	原尻 満子
高11	久賀 朝栄
高11	藤丸 輝代
高12	佐々 雅弘
高12	甲木 宏明
高12	馬場 厚子
高13	田中 通伸
高13	原 伸
高13	尾崎 カツエ

卒回	氏名
高13	成清 謙爾
高14	志田 和子
高14	今泉 京子
高14	境 サヨ子
高15	後藤 民子
高16	金子 修子
高16	黒田 夕工子
高16	高椋 正勝
高17	藤木 清功
高17	中島 久子
高17	龍川 敏彦
高17	下吹越 智佳子
高18	三小田 国光
高18	井口 文章
高18	中 村 易也

卒回	氏名
高18	古賀 行夫
高18	星隈 茂樹
高18	西田 美保子
高19	森田 達雄
高19	石橋 和代
高20	近藤 敬介
高20	菊地 史子
高20	井口 ちつ子
高20	諸藤 由美子
高20	高巢 和登
高21	高連 尾子
高22	下田 真知子
高23	坂本 智臣
高28	中 島 恭子

卒回	氏名
高28	中島 真二
高28	柿添 妃美子
高30	松延 三津子
高30	橋爪 政男
高30	舛田 恵利
高30	加藤 真由美
高31	池末 利活
高32	柴田 雅秀
高32	江崎 道朗
高32	咲村 あかね
高33	井上 賢二
高36	松川 知美
協賛 0.5口	
中56	高田 信義
高9	岩丸 純芳

(1口 2,000円)

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

敬称略

高18 西田美保子
毎号ちよつびりふるさとの風を感じながら楽しく読んでいます。

高7 浜野弘子
いつも楽しみにして拝読しております。元気で中央の展覧会に30年以上出品しておりますが、毎年メ切に追われております。絵にかかわっていられる事に感謝し、事務局の皆様へ感謝です。ありがとうございます。

高6 小野家廣
前略
わずかで申し訳ありませんが、いつも楽しく読ませて頂いてお礼のしるしに。

高7 松永 泰輔
会報で惜別松永伍一の記事を讀ませていただきました。昔、大木町旧花宗中学で社会の授業を受けたことがなつかしく思い出されます。

中41 高戸顕隆
2008年6月10日伝習館で講演し生徒から多くの感想文送られてきました。講演は伝習館時代の思い出から私の戦争体験を語りました。

中55 武藤徳一
同窓会参加者10%達成はご同慶の至りです。
今後は案内状未返信50%超の現状改善が期待され楽しい活性化ある同窓会としたいものです。

中54 武藤吉郎
伝習館東京同窓会第9号ご送付誠にありがとうございます。今回も楽しく拝読いたしました。しかし、編集をされた江崎会長を始め皆様へ敬意と感謝を申し上げます。伝習館東京同窓会の更なるご発展を祈念します。

高3 西山 彰
第9号会報をありがとうございます。企画・編集の作業は大変だと思います。2.5口分お送り致します。

高6 戸上軍治
毎回会報ありがとうございます。今回は田中敬之助さんの「柳川笑話」はユーモアに溢れ思わず笑みに誘われ拝読させて頂きました。編集の皆様のご苦労に感謝します。

高17 早川久子
会報ありがとうございます。同窓会に参加し、久しぶりになつかしい西山先生にお会いし、若々しくお元気な姿に勇気づけられました。「新谷先生の講演もつと聴きたい。」

中55 古賀昭夫
会報9号は表紙に墨書、裏表紙に筑後川鉄橋とまず目をひかせ、ついで同窓会からの故郷の

高23 下田真知子
いつもありがとうございます。1月3日お花で23回卒の同窓会がありました。懐かしい顔にであい楽しいひとときをすごしました。又参加したいと思えます。

高15 一木克子
いつも良い講師を迎えての講演ありがとうございます。今回は正月を過ぎて届いたのでゆっくり読むことができました。

女42 富重信子
太郎稲荷お話しは有難かったです。今度柳川へ行ったら日吉神社へ行ってみたいと思います。

又、青春のバイブライン素晴らしいお話しでした。私にもあんな人がいてくれたら？

高22 田島栄子
昨年度の看病で半年間を柳川で過ごしました。空気・食物・人情やっぱり柳川はよかですね。

高6 田中 稔
会報9号ありがとうございます。裏表紙の昇開橋を見てなつかしく思いました。

高27 江崎友大
いつも楽しく会報覗かせていただいています。これからもよろしく願います。

高2 松平隆子
幹事の皆様にはお世話になっております。毎回東京同窓会会報を送っていただきありがとうございます。平成20年

紹介、趣味と巾広く充実した記事に掲載され素晴らしい編集者のご努力に感謝します。

高41 竜 美代子
会報を讀んでその日は柳川弁の洪水、家族もびっくりでした。

高5 酒井弘子
柳川弁の文字に笑顔をもたらしました。シウウダイが商大でなく昭代でオカシカッタバンモ。

中54 野口清二
さくらさく さくらも きみも うつくしと ささやくきみも さくらもうつくし(鍋島恵子さんの歌です) 大好きな歌です。

高12 甲木宏明
会報ありがとうございます。日程の都合が付けば総会にも参加します。

高3 酒井清行
創刊号から(2003.1.1)各号を讀み返しては、柳川を伝習館を懐かしく感じ入っています。力作に感謝・感服。ありがとうございます。

高2 松平隆子
幹事の皆様にはお世話になっております。毎回東京同窓会会報を送っていただきありがとうございます。平成20年

拝読致しております。平成20年

21年の会費を振込ませていただきます。皆様のご健勝をお祈り致します。

女35 原 ヒサ子

柳川高女は私の誇りです。優秀で個性的な先生方の姿が目につかびます。90歳を過ぎ、私にとって一番の輝きのある時代でした。(娘 代筆)

高23 竹内幸代

同窓会報、いつもありがとうございます。会長様始め編集の方々には心より感謝申し上げます。

高18 満生英二

同窓会誌の発行に携わっている方々感謝して。これからもよろしくお祈りいたします。

高9 北原久也

学年幹事の皆さんご苦労様です。バラクオパマは草の根運動から多額の献金を集めたと聞く、ムツゴロウ会から2粒の種をまく。多くの芽が出るのを願って。

高5 中村義行

「会報 伝習館9号」有難うございました。「東京同窓会」の益々のご発展と会員の皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

高17 浦川邦憲

いつも楽しく拝見させていただいております。編集の方ご苦労さまです。

高7 下田敬子

いつもお世話様でございます。会報を送っていただき有り難うございました。係をして下さっている皆様に感謝しています。

高2 廣松敏克

東京同窓会が盛大に開催され、誠におめでとうございます。同窓会報(9号)も東

京同窓会・伝習館・柳川の情報誌として内容も充実し、楽しく、興味深く拝読いたしました。有難うございました。

中56 松本 学

会報、有難く、又楽しく拝読しております。委員の方は御苦労様ですが頑張ってください。

高8 浜田勝郎

小生様・お元気ですか? 年金が出たので一口そうきんします。私は「まあボチボチでんなあ」という所です! はい。

女41 五十嵐八千代

古里離れて60年余り、会報・なつかしく且つ楽しく購読させて頂いております。大変遅くなってしまい申し訳ございません。

高18 十時理展

伝習館同窓会で柳川弁で皆さんとワイワイやりながら「故郷は遠くにありて思うもの」を実感します。次回を楽しみにしています。

高27 中村智恵子

振込大変遅くなりました。いつも大変楽しく拝読させていただいております。

高18 西田美保子

毎月ちよつぱりふるさとの風を感じながら楽しく読んでます。ありがとうございます。

高10 渡慶次 侑

「伝習館東京同窓会会報」の編集委員の同期(高校10回)である永倉素子さんと内山秀生君、「会報の編集」ご苦労様です。

大学・専攻科および大学院と8年間在校させていただいた大学からの学友達と「古希」の記念祝賀会に参加をし昨日(10月28日)帰沖しました。

東京に輝ける三稜の星たち

「東京同窓会」の歩み——その9——

副会長 松永肅

前号ではサッカー部が平成2年の全国大会に出場のため、前年末に上京することになり、東京同窓会として出来る限りの歓迎と、激励もしたので実行委員会として具体的な態勢作りに動き始めました。平成元年11月27日(月)午後6時30分からホテルグランドパレスにおいて東京同窓会後援会が35名の出席を得て開催され、古賀東京同窓会会長を筆頭に実行委員長に古賀義利氏、副実行委員長に横山二三男(五期会幹事長)、永江政勝の両氏、応援団顧問には宮本直(国士館大学サッカー部後援会長)の各氏が選出され、この時点から後援会が本格的に始まりました。また、実行委員の中に各部会が設けられ、募金部会・部会長に小泉祐一郎、歓迎部会・部会長に増尾義勝、応援団部会・部会長に江崎和夫の各氏が当られ、この各部会長の下に各学年から選出された総勢65名に及ぶ実行委員が委嘱され、後援会として自他共に誇れる組織が出来上がりました。また、組織が各部会ごとに分散して活動することになるため、実行委員長の古賀義利氏を調整役として東京同窓会の事務局が担当することとなりました。

この後援会が活動を始めてから大会が始まるまでひと月しかなく、各部会とも真剣に取り組んでいただきました。この

取り組みを詳しく説明できるスペースに余裕が無く残念乍ら大半を割愛せざるをえず申し訳なく思います。事務局で最初の取り組みは趣意書の作成でありました。その内容は各部会の意向を汲み入れる必要から各部会長と細部に亘り調整し次の趣意書が完成しました。

趣意書

平成元年度第68回全国高等学校サッカー選手権大会出場後援について
拝啓 初冬の候ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は伝習館高等学校東京同窓会へのご協力を賜り心から御礼申し上げます。さて、皆様には既にご承知のことと存じますが、母校伝習館高等学校サッカー部は、去る11月4日、福岡市平和台競技場で行なわれました全国高等学校サッカー選手権福岡大会決勝戦において東海大第五高を4対2で破り、見事、全国大会出場権を獲得いたしました。

平成2年1月1日から1月8日まで首都圏で開催される全国大会においては、三稜精神を遺憾無く發揮し、伝習健児の心意気を充分に知らしめてくれるものと確信いたしております。つきましては、同窓会本部の募金決定をうけ関東地区においては、当東京同窓会に募金委嘱があ

りましたので、これにに応じて左記要領により募金協力をいたしたいと存じます。

東京同窓会としては、開催地の関係と、母校の久し振りの全国大会出場でありますので、選手の志気を高め、必勝を期するため、盛大な歓迎会（激励会）を行うとともに、応援団を結成し支援いたしたいと存じます。

年末、年始のご多忙、かつご出費の多い折とは存じますが、母校のためよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

1 募金

1 一口（五千円） 何口でも結構です。

2 送金方法

全国各郵便局から振込または現金振込の際の手数料は、同封の振替用紙をご利用になれば不要です

3 振込先

千代田区飯田橋1-1-1 ホテル
グランドパレス内

伝習館高等学校東京同窓会

口座番号 東京5-536-38

0番（郵便局振込）

4 送金締切日 平成元年12月25日（月）

2 歓迎会（激励会）

日時 平成元年12月30日（土） 午後5時30分

場所 横浜市中区山下町10 ホテルニュー

1 グランド

☎045-681-1841

会費 一万円（当日、受付にて申し受けます）

3 応援

第1試合

日時 平成2年1月3日（水）

午後2時15分 キックオフ

場所 横浜市三ツ沢球技場（横浜駅よ

りバス10分 三ツ沢公園下車）

対戦相手 石川県星陵高校

第2試合は1月4日（木）三ツ沢球技場で、第3試合は1月6日（土）、千葉総合運動場で行われます。

なお、準備の都合上、歓迎会、応援につきましては同封の葉書で12月20日（水）までにご返信下さいますようお願い申し上げます。

平成元年12月

伝習館高等学校東京同窓会

会長 古賀繁一

サッカー部全国大会出場東京後援会

実行委員長 古賀義利

東京同窓会会員 各位

早速、原案を会長に報告し、ほぼ原案通りでご了解頂きました。趣意書の作成にあたり、最初の検討事項は募金の目標額でありました。後援会として目標額を定めるには母校後援会の目標募金額1千万円を参考にしました。東京同窓会の在籍者数は約2千4百名で、そのうち事務局として趣意書を短時に発送可能な人数は前回開催された東京同窓会で出欠の返事を頂いた8百名足らずの葉書を頼りに案内するしかたではなく、この人数

から勘案して、目標額は母校の目標額の30%・最小限300万円と決めました。

趣意書の発送については、部会長、各実行委員の皆さんは年末の多忙に拘わらず協力いただいております。準備も思うにまかせず、趣意書を一日でも早く同窓生ののもとに届くよう、やむを得ず各学年の実行委員、約30名の皆さんにホテルに集まっていたいただき、先の同窓会返信葉書をもとに各学年毎に発送作業をお願いいたしました。

募金の総額は521名の皆様から、予想以上の3,914,000円もの多額におよびました。また、古賀会長のご寄付は、母校同窓会会長のご寄付額を超えない範囲で本部後援会宛ご送金されたとのことでありました。

歓迎会（激励会）については、選手達の上京スケジュールが、12月30日（土）午前9時に全国大会出場選手21名に監督・顧問の先生を含め23名が集まり、伝習館の正門前で壮行会が盛大に行われ、

正午に福岡空港を出発し、午後2時頃に羽田空港に到着、直ちに指定された横浜の旅館に午後4時に入る予定が組まれておりました。歓迎会（激励会）を催すには大会前のトレーニング等を勘案して、その日の夜に実施することになりました。歓迎（激励）部会の実行委員の皆さんは大変なご苦労があったと思いますが、古賀会長のご意向もあり、横浜で最も伝統のある「ホテルニューグランド」で開催することが出来ました。歓迎（激励）部会では当日、選手の送迎のため貸切バスを仕立て羽田空港から宿泊旅館まで送

り、手荷物を降ろし、一時休息の後、午後5時30分からの歓迎会（激励会）に参加していただきました。羽田空港への出迎いは古賀実行委員長と事務局の私（松永）があたりバスに同乗し、歓迎（激励）会の会場まで案内いたしました。

会場には、本部の江上後援会長・池田校長をはじめ後援会の役員・応援に駆けつけられた選手たちの父兄なども参加され、総勢120名を超える歓迎（激励）会となりました。選手たちも会場の雰囲気は圧倒され、緊張の色が隠せない様子でした。古賀東京同窓会会長などの歓迎と、激励の言葉に、緊張感もピークに達し、同窓の先輩たちの期待感に、大きな責任を負わされ、選手の間目つきが変わっておりましたが、やはり高校生でしょうか、懇親会に移ると普段の生徒の姿に戻り、嬉々として先輩たちと談笑の環をつくり、和やかで意義ある歓迎（激励）会を催すことができました。

応援団部会の江崎部会長は、母校陸上部の先輩で、在京の後輩の面倒見も良く、後輩に慕われている人柄でこの部会の最適任者であります。応援団部会の最大の目的は、大会当日人数をどれだけ集められるかにかかっております。後援会の趣意書での呼びかけで集まった人数は約500名であったと記憶しておりますが、正月3日の大会当日は石川県の星陵高校との対戦でありましたが、地元から駆けつけた父兄・友人・知人を含め、伝習館関係だけで1000名を超える人数が集まり大応援団となりました。

実行委員の皆さんも、年末の多忙のな

か、スタンドで悔いの残らない応援が出来るよう大きな横断幕や小道具まで準備され、細部にわたり配慮していただきました。

また、会場に着いて驚いたことに、本校で学生の応援団が急遽組織され駆けつけており、更に吹奏楽部の生徒までが加わり、熱心な応援を繰り広げ、伝習健児の心意気を遺憾無く披れきしてくれました。古賀会長も90歳に近いご高齢にも拘わらず、北風の厳しい三ツ沢グラウンドで、池田校長と並んで熱心に声援を送っておられました。星陵高校戦では終了まぎわ、3対3に追いつき、PK戦で見事な大逆転を演じ、3回戦に駒を進めることが出来ました。



桐蔭学園戦を応援中の古賀会長（中）

翌日の3回戦で強豪・桐蔭学園との対戦では、残念乍ら0対4と苦杯を喫したものの、ベスト16に勝ち残れたことは、福岡県を代表しての戦績は立派であり、地元へ胸を張って堂々と凱旋して欲しいと思いました。

桐蔭学園との試合終了のあと、古賀会長の肝いりで、先の「ホテルニューグランド」で出場選手を労うため、慰労会を催されたと同っており。これも、会長が日頃、伝習館を大変愛され、人一倍大切にしておられました。母校サッカー部の全国大会出場をどれほど嬉しく思われていたか想像に難くありません。

ここに至る迄には事務局としては、各部会の調整を行うと同時に本部後援会・学校関係など多岐に亘り遺漏のないよう連絡をとりあい、双方の行き違いをおこさないよう細心の注意を払っておりました。

選手達の歓迎（激励）会の翌日から大会に向けてトレーニングを始める練習場を確保するための奔走が始まりました。

そこで、永江秀作君（高5回卒）が横浜在住で彼の住まいの側に関東学院大学に真冬でも青々と繁った立派なサッカー場を選手たちのトレーニング場所に定め、見事借り受けてきたのに驚きました。当日は、彼の奥さん（高校7回卒）まで駆り出され、温かい豚汁や昼食まで差し入れてくれました。練習場には池田校長先生も激励に來られ、田中禮二君と私も出向かせてもらいました。事務局の仕事を、かい摘んで説明しましたが、さきに申しあげたとおりスペースが足りず、以



られました。このアルバムが大変な人気を博し、伝習館をはじめ、地元柳川の銀行で展示会が催されたほどでした。

古賀会長から、重工の本社に呼び出しがあり、会長から折角全国大会に出場して好成绩を挙げたのだから、記念品を贈呈したいので、記念になる品を見繕って欲しいとのことでありました。

早速、数個の記念品を選び、会長のご意向に添い、伝習館の徽章をあしらった、特別注文で生地が濃紺のペンダントを発注いたしました。然し特注品でもあり、納品に2ヶ月以上を有しますので記念品の贈呈式は、この5月19日（土）に開催の東京同窓会の席上で池田校長に贈呈されることになりました。

降勝手ながら大枠でご説明させていただきま

今回の全国高等学校サッカー選手権大会出場東京同窓会後援会も滞りなく清算も完了し、この2月にホテルグランドパレスで古賀会長が出席され、午後6時から後援会と実行委員会による決算報告が審議され、その結果、満場一致で承認されました。また、後援会の組織も当日限りで解散することになりました。

事務局に歓迎（激励）部会長の増尾氏から全国大会出場記念に記録を残すため専門のカメラマンに撮影依頼の要請がありました。早速、高校1回卒のミハラフ

また会議終了の後、会長の私費による慰労会がホテルの地下レストランで催され、和やかなひとときを過ごさせていただきました。

オートの代表三原信一郎氏に依頼し立派な記念のアルバムが完成し、本校に届け

決算の内容については、後援会の皆さんに発送されたお礼状をご参考にしてい

ただければ幸いに存じます。

母校伝習館高等学校サッカー部全国大会
出場へのご後援に対するお礼

謹啓 皆様におかれましてはますます

ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度の第68回全国高等学校サ
ッカー選手権大会への母校サッカー部の
出場に際しましては、年末年始のご多
忙、多端な折にも拘わらず、絶大なるご
後援を賜り有難く厚くお礼申し上げま
す。

お蔭をもちまして、目標の全国ベスト
16を果たし、全国に伝習館高校ここにあり
と知らしめたものと確信いたしております。
第3回戦で強豪桐蔭高校には、0
対4と苦杯を喫したものの、この一戦で
いろいろと勉強になるものがあつたと思
われ、星陵高校戦におきましては、終了
間際に、3対3に追いつき、PK戦で見
事な大逆転を演じ得ましたことは、東京
同窓会会員の皆様方の熱心な応援があつ
たればこそと存じます。伝習館の伝統の
力と、三稜精神を発揮でき、福岡県代表
として恥かしくない活躍ができたことを
誇りと感じました。

伝習館池田校長、柳川の同窓会本部か
ら懇篤な礼状をいただき皆様へどうぞ宜
しくとのことであります。

なお、今回の寄付金、募金の実績につ
いてご報告申し上げます。

521名の皆様から総額3,914,
000円の募金をいただき、これより募
金に伴う事務費、激励会、応援に伴う諸
費用、記念品(アルバム・記念メダル)
等の費用1,742,632円を差引き、

残額2,171,368円を母校サッカ
ー部全国大会出場後援会に納入いたしま
した。

また、後援会の収支決算によります

と、去る1月23日付で収入26,484,
094円、支出13,574,432円、
差引残高12,909,665円となつ
ており、東京の分がこれに加わることに
なります。

柳川の後援会本部では、これらの残金
は積立てておき、今後の九州大会以上の
遠征費補助や、機器購入などの部活動(文
化部を含む)充実費にあてることに決定
された由につき申し添えます。

以上、ご報告申し上げます衷心お礼申し上
げます。

平成2年2月15日

伝習館高等学校東京同窓会

会長 古賀繁一

実行委員長 古賀義利

東京同窓会会員 各位

今回の母校サッカー部全国大会出場の
吉報を最初にもたらしてくれたのが5回
卒の故永江秀作君でありました。彼が余
程感銘したのか、後援会の活動には日夜
を問わず活躍してくれ、その原動力とな
りました。また、急遽委嘱された実行委
員の方々のご協力が無ければ、伝習館高
等学校開校以来このような受入れ態勢を
敷くことは出来なかつたと思います。

以下次号

伝習館東京同窓会決算収支報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

単位：円

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
普通賛助金(郵便局)	1,279,000	会報制作費一式(9号)	806,111
普通賛助金(銀行)	20,000	会報送料一式(9号)	178,120
同窓会総会残金	62,491	伝習館同窓会広告料	40,000
普通預金残高入金	6,166	ホームページ保守料	50,400
普通預金利息	15	ホームページ保守料	4,200
当期収入	1,367,672	同窓会事務費経費	93,859
前期繰越金	2,370,039	修学旅行交流会交通費	7,000
		伝習館校歌DVD複写2セット	11,654
		郵便振替手数料	21,880
		印字サービス料	2,600
		当期支出	1,215,824
		次期繰越金	2,521,887
合計	3,737,711	合計	3,737,711

繰越郵便貯金残高 960,780
繰越銀行預金残高 54,051
繰越現金残高 1,507,055
計 2,521,887

平成22年度 伝習館東京同窓会総会のお知らせ

会長 江崎正直

隔年開催の総会を下記のように開催します。
久し振りの級友・旧友・先輩・後輩と柳川弁？ みずま弁？ みやま弁？ 等々、
思う存分ふるさと訛りで楽しく語り合ってみませんか！
「卒業写真」そのままの「あの人」とも会えるかも知れませんね……。
ふるってご参加下さい。

記

日時：平成22年7月11日（日）午前11時より（受付開始10時30分）
場所：ホテルグランドパレス
会費：男性10,000円・女性9,000円・学生は無料

講演会

立花家と伝習館

廃藩置県で大部分の藩侯は東京（江戸）へ移ってしまい、地元に残ったのは立花家ほか数藩に過ぎませんでした。その立花家の歴史を知ることは、柳川の歴史そのものともいえます。今回は講演会に立花家を取り上げました。

まず「立花家の家系図」では宗鑑氏（長男）から、宗茂公父君の道雪公以来、今日までの立花家の家系を中心に三池立花藩との関係、安東省庵、藩校伝習館の創立などの概要をお話させていただきます。

次の「鼎談」では（宗鑑氏（長男）、寛茂氏（次男）、民雄氏（三男）、万紗子氏（次女））の皆様から、主として維新以降の立花家のご苦労についてお話をいただきます。終戦後の立花家は、今年100歳になれる文子様が料理免許まで取得して料亭「御花」の経営に今は亡き殿さんとともに頑張られました。まさしく、お姫様から女将さんへの転身をされるなど、激動の人生を歩まれました。

余興

ジャズ・ビッグバンド

星隈茂樹さん（第18回卒）が主催されている慶応大のOBバンドが来場します。昔の曲ばかりでなく、皆さんがご存知のポピュラーな曲をはじめ、プレスリーやラテンの闘牛士のマンボとか、ビートルズまで幅広いレパートリーの中から、皆さん方のことを配慮した選曲を披露します。懇親会直前に盛り上がること間違いなしですから、1名でも多くの会員の出席を期待します。

伝習館・平成20年度（平成21年3月卒業）進路状況

【 】は過年度生

防衛医科大学	1	防衛大学	6
--------	---	------	---

◎国公立大合格者 112名【15】

京都大	2	九州大	17【3】
東京学芸大	1	横浜国立	2
神戸大	4【1】	広島大	7【1】
山口大	1	九州工業大	3
福岡教育大	4	佐賀大	26【2】
長崎大	7【1】	熊本大	18【5】
宮崎大	2	鹿児島大	2
北九州市立大	5	福岡県立大	2
長崎県立大	2		など

◎私立大学合格者 396名【38】

早稲田大	9【1】	東京理科大	7【3】
慶応大	1【1】	同志社大	22【2】
国際基督教大	1	立命館大	28【7】
立教大	2	関西大	10【2】
明治大	5	西南学院大	49【1】
法政大	5	福岡大	98【6】

など

◎公務員合格者 4名【1】

現役公務員志望者3名全員合格

先輩・後輩より

詩「柳川」

中41 高戸顕隆

柳川

柳川は美しきかな

川下る水の流れに

遠き若き日の

思い出が散る

白秋のふるさとへの

想いのばれ

「帰去来」の詩を

口づかむ

「故郷やそのかの子ら

皆老して遠きに行

き寄るやうに

柳川の空は藍の色

水の色はみどりに

頬つたう涙一す

柳川は

美しきかな

高戸顕隆詩

芸の道程は遠い、 紆余曲折

よかやつかんも (第5弾)

辛抱と我慢

高1 横山二三男

それぞれの屋敷に色があった。
青々とした松の木、まっすぐに伸びる



強い竹の木そして古城を偲ばせるような石垣に囲まれた家。

せんべ屋の伴、平野と登下校する時よく立停ったのが松藤弁護士邸前だった。

「ふとかウチやね!」

「エラか人の住んどんなはるウチやろ?」

おっとりとした性格でいつもニコニコ笑顔を絶やさない風貌だった。

「あ、星がきれい」

夜道を歩いた時など空を見上げて数えたもんだ。公害のない時代の夜空は澄み切っていてキラキラ星が輝いていて、い

まにも落ちてきそうな迫力があつた。ぐうっとひと息つくときと空気がうまい。

「わけのしんのすの酔味噌和えはうまかね」

「貝柱の乾したつば炭火焼きにして、熱かま、醤油にジューツとつけて食うとのさんごつうまかね」

真夏の昼さがり仲良しの伝習館生二人は農道を歩きながら食い物の話で岸辺へ水が寄せるように流れ出していた。

わが筑後地方の方言は豊かな音楽性と生命力を感じさせると詩人の川崎 洋(平成16年没)氏は書いていた。

わらすほ・むつごろ・うんたけ・めかじや・どんこ……

ひと息ついたところで、急に平野が空の一点を指差して、耳の奥をほじくった。

爆音が聞こえるじゃろ？

あっちの方！

東南の大牟田の方角からこちらに向つてくる異様なプロペラ音だ。あ、またか？ 平和な柳川の上空にも米軍機が来襲するようになった。

戦の末期になると迎撃する友軍機なんかまったくない。マリアナ群島を離陸して長距離を成層圏、一万メートル以上の高空から日参してくる。

われわれも飽きてきて警戒心も薄らぐほど慣れ慣れしくやってきた。

松藤家の石垣に身を寄せて、真っ白い飛行機雲の尾を引いて飛行する編隊の機数を数えて遊んでいた。

一・二・三……百・二百……二百十……

平野はもうそれ以上数えようともしな

いで、床机(ばんこ)に腰をおろしてしまった。

超音速F-15JやF4EJとのスピード感は較べものにならぬほど鈍い。

もうい、や

と、待避壁から路上へ身を乗り出した瞬間に一機の戦闘機が舞い降りてきた。

ヤベーツ！ 二人はとっさに元の位置へ走った。

P38だ！

平野は敏感に反応した。

ロッキード社製の双発双胴の戦闘機が超低空で飛来した。首に巻いたパイロットの白いスカーフが肉眼で見抜けるほど。

笑つてやがる

しばらくは両開から西宮永から城内あたりをウロウロ飛び回る。まるで遊覧飛行しているように悠々と。ぶらり一人旅だ。

こん畜生め！

なにしにこんな所まで来やがる！

きつと柳川住民たちは叫んだにちがいない。この美しい城下町に爆弾なんか落とすじゃねえぞ！ われわれもそう祈つた。

と、突然その一機が旋回して急降下、ドドーン、バリバリ、ドーン……

大音響とともに大砂塵天空へ舞い上らしたのである。

250キロ爆弾を落したのだ。

講堂・雨天体操場・南校舎のガラスは微塵に吹つ飛ぶ、直径一キロの市中の民家は轟音とともに崩壊した。大惨事だ。

なぜ？

その理由をどうしても書き残しておきたいから。当時の伝習館の校庭の一部は食糧増産のための農園へと変貌していたし、校庭の中央にはリヤカーを土台にベニヤ板で作った模擬戦車を放置していた。対戦車戦に備えた軍事教練用のもの。

よっぽどアホなパイロットだったろうか？ ホンモノと間違えたんじゃないか？ というのが大方の見方だったようだ。バカもんが！

私は少しちがう。

戦隊を離脱して原隊復帰を迷っていたバカ野郎が、重荷をどこかに落して帰ろうと思った挙句、引き金を引いてしまったものと解釈する。

なぜなら、爆弾は目標の中せず見事にはずれ、皮肉にも校庭西端にあったわがテニス部専用のクレーコートに炸裂したので。

直径10メートル、深さ5

メートルの大穴をベースライン上にあけたのである。

バカ野郎！

爆発跡に集った部員一同は大声上げて怒り狂つた。

手入れのゆきとどいたコートが無残な姿と化した跡地に立ちすくんで怒つた。

復旧が大変だから。

許斐・安永・橋本・石井……みんな怒る。

投下翌日からの復旧作業は至難の業だった。全員が鶴嘴(つるはし)担いで肉体労働に専念した。清水山

へ荒木土掘りに、朝鮮松原へ小砂拾いにくり出した。

リヤカーや大八車など人力の運搬車で修復作業に汗を流す。破壊された土砂が表面が水平で凹みのないコートに立て直すのに一カ月を費した。

雀百まで踊りを忘れず、みんな好きなテニス道をまっしぐらの青年たちにとつてこの程度の労力は当然の奉仕だと思つていたにちがいない。

それから一カ月、終戦だ。

あの時代に敵性スポーツとまで稱されながらも部活を廃止しないでコートを確保していた母校の勇気と英断に感謝したい。

先輩と後輩が手を結び合つての練習はいまも続いているだろう。

放課後になると、ポーン・ポーンと軽快な金属音があたりにこだまする。エコ



一同にコートサイドに現われるのが、隣の女子高生二人だった。兩名とも電車通学、おさげ髪を揺らしてわが練習風景を見学に来ていた。

若けりゃいいというもんじゃありません。

私は一人の娘さんにホーレン草。

チト、わざとらしくった。

が、写真を封筒に入れて一筆啓上してしまつた。ほっと吹きぬける風のような軽い気持ちで、

ところがドッコイ。

二人の関係はすばやく感じとつていた軟派の松尾は笑いこけながら、

「先輩！ ホラ！ あれが来た！」

と、わめく。私はその娘が面前に現われた途端に顔は紅潮し、体は硬直してしまつた。

彼女はいきなり懐から例の封筒を取り出し、部員が注目している最中に興奮しながら、

「こんなの私に出さないください！ お父さんにきつく叱られました」

実に無愛想で失礼な返事をしながらポイと封筒を私のポケットへねじり込んだ。

スタスタと運動場から正門へ抜けて帰つてしまつた。その後、その二人は二度とコートへは現われなかった。

恋のワンウェイチケットは確かにブル（陰鬱な、メランコリーな）なものでした。

残念。

つゞく

花咲か爺さん奮闘記

高6 岡田哲也

柳川に桜の名所を、と思いついたのは同期の親友矢ヶ部惣助君の告別式だった。

司法書士として地域に貢献し、多くの人々を助けた立派な人物だったのに、後に残つたのは想い出だけである。

まちおこしを兼ねて、みんなと一緒に、生きた証しをふるさとに残したい、という願いが芽生えたのはこのときだった。

でも、

どこに植えるのか？

*だれとやるのか。

*資金をどうする？ ……

数々の難問を解決してくれたのは、同期の友人たちである。

やはり級友で、西鉄柳川駅前にスポーツ用品店を営む塩塚正之君が「よか場所のあるばんも」と案内してくれたのが柳川市立「立花

いこいの森公園」である。こどものころ、お花からごころ引き出される荷馬車が三橋の「殿さん島」(立

花農事試験場)にわらや堆肥を運ぶのだと聞かされたかすかな思い出があるが、行ったことはなかった。

塩塚君に案内されて行ってみると、一万坪近い広さといい、傍らを沖の端川の清流が流れ、東方はるかに清水山を望む詩情豊かな眺めといい、まさにうつつの立地だった。これで場所は決まりである。

地元在住の同期生で、もと三橋町長の新開義喜君に相談すると、即座に協力を約してくれた。町長時代に立花家から農事試験場を借り入れ、三橋町立公園にしたのは彼である。これが合併後、柳川市立「立花いこいの森公園」になった。

市役所のまちづくり課に相談に行く

と、「どなたさんかんも？」

と怪訝な顔をされ、ハツとする。

先祖が立花宗茂公に従つて柳川入りをしてから三百八十年、地元の小中高を出た生粋の柳川人だと思っていたが、市役所ではただのハゲじいさんだった。

身元が分かると、次の質問は

「地元の賛同はありますか？」

新開君に相談すると、たちどころに賛同者十六人の署名を集めてくれた。市役所に届けると、これを見た途端、職員たちの態度が一変する。浦島太郎の私は存じ上げなかったが、この方々はかくれもない地元の名士たちだったのである。

新開君や塩塚君に同道願い、植樹許可申請書を持って行くと、今度は応接室に通され、まちづくり課の属する建設部の蒲池部長が受け取り、本件は許可します



新開義喜君（前列左から2人目）と筆者（その後ろ）
—立花いこいの森公園にて—

から、という嬉しい一言をいただいた。

聞けば蒲池部長は嘗て三橋町で新開町長の部下だった由、話が早いわけである。

植樹は地元、中山小学校の全校児童に頼むことにした。全校児童といつても六十五人だが、若木とともに健やかに育ち、将来美しい人生の花を咲かせてほしい、という願いである。

校長先生にお願いすると、教育的効果が高い、と即座に協力を約してくださいました。

発起人一同で話し合い、事業主体をNPO法人「中山花の会」とすることとし、設立総会を開いて定款を定め、新開君に理事長就任をお願いする。県庁に申請すると、順調に認証を受けることができた。定款には会の目的として「児童の自然を慈しみ、環境を護り、郷土を愛する心

を育むとともに、豊かな自然と文化の香りに恵まれた柳川の立地と歴史を活かして町おこしにも役立てる」と謳った。

さて、次なる課題は概算百万円の資金調達である。柳川の花の名所を目指すからには銘木の苗を植えたい。市役所の農政課で尋ねると、一本五千円はするとい

う。そこで思い出したのがコマツグループの「日本花の会」である。

新入社員の頃、当時の小松製作所が日本中に桜を植える活動を始め、丸紅にも協力依頼があったので、傘下のゴルフ場などに配布するお手伝いをしたことがある。

赤坂溜池のコマツ本社を訪ねてみると会は健在で、申請されれば苗の交付を検討する由。早速申し込み用紙をいただき、予備を含めて八十八本を申し込みと、やがて「申請通り交付する」という嬉しい知らせ。児童の健全育成とまちおこしという目的、それに市立公園に植えるという公共性が評価されたらしい。

無償交付というのも有難いが、結城市の農場で品種改良を重ねた「越の彼岸」と「花笠」という病害虫に強く、成長後の花姿が見事な銘木というのが嬉しい。

公園のある中山地区は毎年四月下旬、大藤まつりで二十万人からの人出で賑わう柳川の観光名所である。

藤に先立って花まつりができれば賑わいの期間は一ヶ月延びて、まちおこしにも役立つ。樹種を早咲きの彼岸系と遅咲きの山桜系に分けたのも賑わいの長期化が狙いである。

追い風は続く。市役所から、県の補助金を申請してどうかと、願ってもない連絡。本件は県の「緑の募金助成事業」の趣旨に該当しそうだという。これ幸いと、限度額の五十万円を申請すると翌月、満額の交付通知が届いた。

一時はふるさとへのご恩返しと割り切つて、全額個人負担を覚悟していたが、苗木と補助金のおかげで九十万円分以上の援助が受けられ、自己負担は十数万円で済む計算になった。

植樹は休眠期の冬に限る。学校行事の都合に合わせて平成二十一年二月十八日、植樹会を開催した。可愛い子供たちに丈二米ほどの苗を一本づつ、「大事に育ててね」

などと言って渡し、予め掘っておいた大きな植え穴に児童たちと一緒に定植する。

国会議員や県議、市議、そして古賀己智生、古賀勇生人、下川寛幸、玉真嘉茂君など同期の面々も応援に来てくれた。植え終わると、子どもたちが自分で書いた名札を苗木に結びつける。

あらかじめ県庁と市役所の記者クラブに発表文を届けておいたところ、地元二紙が取材に来て写真入りで報道された。

テレビニュースでも取り上げられたのに加え、テレビ番組のDVDを配ると、たった一分弱なのに一生の記念と喜ばれた。

春になると、まもなく苗木は一斉に芽を吹き、その後順調に成長中である。

東西の公園入り口に一基づつ「みんなで花の名所を作りましょう」という見出しで大きな説明板も建てた。

ところで、この件では思いがけない発見があった。

先年、恩師の藤丸三雄先生が「君のご先祖ではないか」

と言われ、小生を二ツ川の「萩の碑」に案内してくださったことを思い出したのである。

廃藩置県で気落ちしておられた立花家第十三代の鑑寛公をお慰めするため、旧臣有志が発起人となり、殿様が殊のほか愛された萩をこの河畔に植えた由。台座に刻まれた七人の侍の最初に岡田修理とあるのは紛れもなく曾祖父の名であった。

萩の名所から程近い公園で、今度は曾孫の小生が桜の名所を作る活動に携わるというのも思えば不思議なご縁である。

この萩は百年後の今も咲き続けている。

* * *

公園の植樹で会の活動は一段落したわけだが、沖の端川の清流を眺めていると、この両岸にも植樹したくなった。

彼方に見える九州新幹線後船小屋駅から有明海の河口まで約十五キロに桜や榎、楓、柿など四季それぞれに楽しめる木々を植え、清流下りのあと柳川観光ができるようにすれば一層の町おこしになるのではないかという思いが募る。折りしも発表された九州新幹線の愛称がなんと

「さくら」!

男ならやってみろ!

ドンと背中を押された感じである。

十米間隔だと三千本植える勘定になる

が、総会に諮ると満場一致で賛成された。とはいえ、計画実施には公園の植樹とは比較にならない大問題が二つある。

先ず河川法で禁止されているはずの堤防の植樹許可が得られるだろうか?

次に、苗の無償交付が受けられるとしても、重機を使って植え穴を掘り、堆肥を施し支柱を立てるには一株あたり七、八千円はかかる。三千本だと……

ままよとばかり霞ヶ関の国交省河川局に向いて相談する。玄関払いかと思いきや、おりしも「かわまちづくり」という新政策が実施されようとしており、審査が通れば植樹も可能だし、河畔にビールやコーヒー、ソフトクリームなどの飲食物や土産品などを販売するカフェテラスの設置も認めるという。

しかも景気浮揚策の一環として、まったく額の補助金も支給される由。ただし地元が一致して賛同し、公共性が高く、かつ一件当たり三億円以上の大型案件、というのが条件という。

三億円! これで資金の問題は解決かと喜んだが、コトはそう簡単ではない。

沖の端川を管理する県庁を訪れてわかったのだが、相当額の地元負担金が必要というのだ。国策に協力するのだから、全額国庫負担で、と力説するつもりだが、成否の程はやってみなければ分からない。

申請書は市長から県知事経由大臣に提

出されるので、まず市長の承認が必要だが、今春当選した金子市長は柳川の観光まちおこしを公約されていることでもあり、会としては市の全面協力を期待している。

* * *

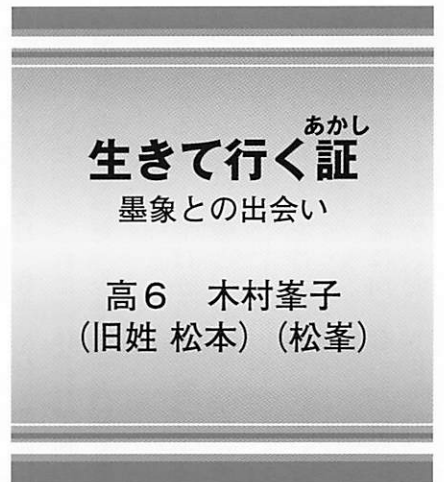
何をすることも困難はつきものだが、活動の過程で痛感したのは友の有難さである。

ここまで来られたのはみんな友人たちのおかげで困難が克服できたからで、私のやったことなど取るに足らない。

今は仲間たちと十年後の花まつりを楽しみにしている。そのころには子供たちも立派な若者に成長していることだろう。

矢ヶ部君たちとも、いずれ天上の美酒を酌み交わすつもりだ。

(了)



父が書を嗜む^{たむ}事もあり、五、六才頃より、自然に、筆を持つようになった。小学校にはいると、担任の先生が書に長けており、とても教え方が上手^{うま}く、特に見込みのある生徒を、放課後に残して指導をしていた。そのおもしろさに、書の世界へのめり込むようになる。

中学では、三瀨郡下の新年書き初め揮毫会、七夕揮毫会と、天賞をとり続けた。



国際貢献文化功労賞
平和への祈り
縦190×横110

伝習館高校へはいり、助弘桂雪(稜威男)先生と云う、かな文字の偉大なる先生に出会い、美しいかな文字の世界へと引き込まれていった。

一九六一年、健一(弁護士)と結婚、上京、東京弁護士婦人の会「むつみ会」の書のサークルで、美智子妃殿下(現・皇后陛下)に書の手解きをしていた熊谷恒子(かな文字、第一人者日展参与、全日本書道連盟参与)先生を知り、指導を受けることになる。

しかし、熊谷先生は一九八六年、九十才にて他界。

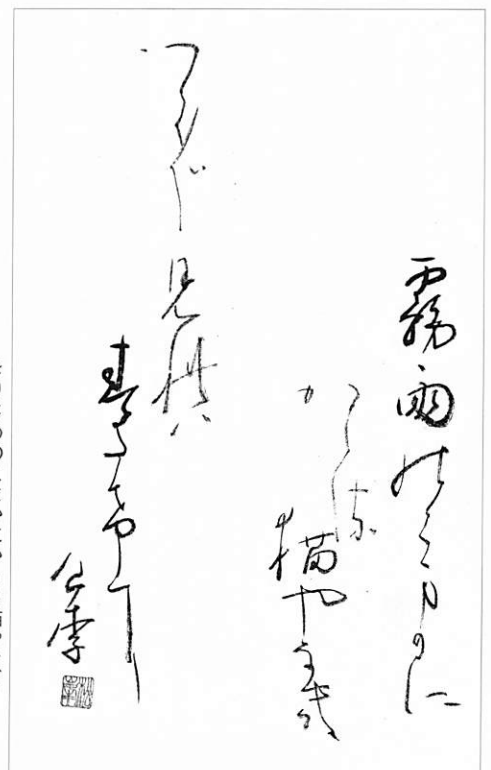
後に、飯島敬芳(毎日書道会常任顧問、日本書道美術院理事長、かな文字)先生に師事、毎日書道展、日書展、と入選、入賞を続けるが、日本独特の縦割りの世界に疑問を感じ、かな文字から、墨象へと挑戦。

墨象とは、自身の心象を表現、文字というイメージからの脱却、次々と生まれてくる、インスピレーションを形にしていくなのである。文字という障壁がないので、外国人にも、理解されやすい。

二〇〇三年「ル・サロン」……(ルイ十四世時代に創設され、三百四十年の歴史を誇る、世界最大、最古の、フランス

きりさめのかまかにかゝる猫やなぎ
つくづく見れば春たけにけり

北原白秋



芸術家協会) 展に出品連続入選、協会の永久会員に推された。

この協会の会員には、ミレー、ルノワール、セザンヌ、マネ、モネ、作家のモロー、パッサン、彫刻のロダン、カミーユ、クロード等々、歴史上有名な芸術家が名を連ねている。

又、二〇〇八年、世界三大美術館の一つ、スペイン国立プラド美術館より、芸術家功労認定証が贈られてきた。この認定証は、プラド美術館芸術家会員二三五名の中で、二七人目の授与とのこと。国際的に評価されたことを、有難く思っている。

思うに、かな文字であれ、墨象であれ、書くこととは、筆を通して気を入れることである。気が込められていない作品からは、人に訴える力が伝わらないと思う。

木村松峯(峯子)

1936年福岡県柳川市出身 南伊豆在住
電話・ファックス 0558-62-4512
師 熊谷恒子・飯島敬芳
ル・サロン(世界最大・最古フランス芸術家協会)永久会員
スペイン国立プラド美術館芸術家功労証会員
中国福州書院認定者
日本書峯会 主宰

- 2003年 芽生え アルデスタプレスティオソ賞(偉大なる芸術家賞)(2002年 ル・サロン入選作)
- 2004年 木陰 プレミオデ・ヌーベデフォルトウナ賞(日西芸術瑞雲賞)(2003年 ル・サロン入選作)
- 2005年 夢はてしなく ディプロムドゥヌール賞(モノコ観光大臣賞)
- 2005年 木漏れ日 トレジャー・オブ・アジアアート賞(東洋美術至室賞) チェコ・プラハ美術館収蔵
- 2005年 突風 オーストリア・クンスタステティック賞(オーストリア名誉芸術賞) ミマールシナン大学前モニュメントに名前掲載

- 2006年 にらめっこ 芸術平和大賞(2004年 ル・サロン入選作)
- 2006年 永久(とわ)の別れ グランプレミオ・クロレセル・デル・アルデ賞(芸術大華褒賞)
- 2006年 ドリーム プリ・ドゥヌール賞(名誉賞) モナコ公国政府収蔵
- 2006年 希望 タヒチ・プレジデント賞(タヒチ大統領賞)
- 2007年 神に祈りを 中国、福州書院より認定証書授与
- 2007年 人生は驚きばかり カナダ、ケベック州知事賞
- 2008年 夢はぐくみて 世界文化功労最高芸術家大賞
- 2008年 五月雨 日米蘭芸術アカデミー文化創造芸術大冠賞
- 2009年 平和への祈り 国際貢献芸術文化功労賞
- 2009年 一人旅立ち プリド・アート・プラスティーク(モノコ公国芸術褒賞)
- 2009年 茨の道 プレミオ・アラプロテクション・メディオアンビエンタートラベルデルアルテ賞(地球環境芸術德行功労賞)
- 2009年 スペイン国立プラド美術館より財団芸術家功労証授与
- 2009年 灼熱の恋 日本書画芸術大賞

他、国内外にて受賞収蔵多数

はじめての東京

高7 田中敬之助

はじめに

これは、五十数年前の話です。高齢者の方は、「おお、昔はそうじゃった」と思い出して下さい。若い人達は、「へえ、そげんじゃったつねえ」と笑ってやって下さい。

特急列車に乗って

確か、阿蘇か霧島という名の列車だったと思う。朝、まだ星が光っていた。乗ったのは大牟田駅。なにしろ九州を離れるのは今度が二度目。修学旅行で関西には行っていたが、これは団体旅行で何の心配もいらなかった。今度は一人旅である。

今考えると、少しばかりの金額であるが、無くしては大変と、お金を包んだサランを腹巻代わりにして出発した。いや、財布というのを持たなかったというのが本当かも知れない。

博多以降は、座席に向き合った四人、誰一人降りることなく東京へと向かって

いた。四人は直ぐに仲良くなりいろいろ会話するようになった。九州から大阪あたりまでは、蒸気機関車である。閉め忘れた窓でもあろうものなら、煙がどつと流れ込み大騒ぎになる。お陰で大きな駅のプラットホームには、無数の洗面用の蛇口が並んでおり、ホームに着くと皆が一目散で蛇口に向かって走るのである。夜は流石に疲れていたのか、若かったせいなのか、あの硬い椅子に座ったままぐっすり眠ることができた。今ではとてもではないが、耐えられないであろう。

カルチャーショック

朝のうちに用事を済ませ、午後からは私を受け入れてくれることになっている人を尋ねて虎ノ門にある文部省(文部科学省)に行くことにした。親同士はよく知り合った仲とはいえ、私にとっては、一度もお会いしたことのない人を探ねていく訳だから何だか心配である。

今思えば、新橋で降りて虎ノ門へ行くのが当たり前だろう。ところが有楽町で降りてしまった。区分地図を頼りに、虎ノ門めがけて歩き出した。はじめに目に入ったのが日劇と朝日新聞の本社である。うーん、二つともニュース映画で見た覚えがある。もう少し行くと今度は数寄屋橋である。この橋も映画「君の名は」で見覚えのある橋であった。(現在は河が埋め立てられ橋も無くなっている)

とほとほと公園の中を歩いて行くと今度は日比谷公会堂の出入り口の石段と反対方向に帝国ホテルの玄関が見えてき

た。いずれもニュース映画などで見覚えのある光景で何だかはじめて行った都市とは思えないような気がした。

文部省では守衛さんに用件を言うところに通してくれた。話は親から伝えてあったらしく、直ぐに面会できたが、今会議中なので息子に迎いに来させるので、しばらく此処で待っててということになった。三十分もしないうちに息子さんが迎えに来てくれ、やっとホットした。

息子さんは中学三年生で気さくな人だった。彼は、虎ノ門交差点の近くで手をあげた。タクシーがキキキッと止まり無事に家までたどり着くことができた。私は柳川でタクシーなど乗った記憶はない。それなのに、東京では中学生が手をあげただけでタクシーが止まるではないか、もう大変なカルチャーショックであった。

中点(・) ぐらいは付けておいてよ

歩いて五分くらいところに蕎麦屋があった。中に入り吊り下げられたメニューをみながら「もりかけ下さい」と云ったところ笑われてしまった。もりはザルの上に蕎麦を盛ったもの、かけは汁につかったものだそう。柳川で、蕎麦などほとんど食べていなかった私にはもりとかけの違いなど分かるはずがない。

それなら、「もり・かけ」と中点ぐらい付けときなさいと云いたい。(その店のメニューには中点など無かった)

銭湯で会おうとは

お風呂は、近くの銭湯に行った。柳川と違って入っている人が多く、お湯の温度もかなり熱い。湯気がもうもうとしていた。子供達が賑やかに騒いでいる。

そんな中、一人の男性がにこにこして近づいて来るではないか。私はその頃からメガネを必要としていたが、日常はかけていなかった。誰だろう。

「おい、敬ちゃん」なんと、それは同期生の荒巻君ではないか。本当にびっくりした。東京では示しあわせない限り滅多に知人と出会うものではない。偶然も偶然、しかも彼が下宿していたところが、私のいたところのすぐ近くであろうとは。

余談ですが、柳川と東京の銭湯の違いを書いてみます。

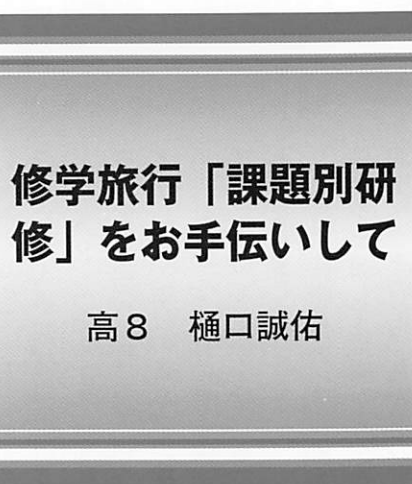
- ① 東京の深いほうの湯船はむちゃくちゃに熱い。
- ② 男性と女性の湯船の位置が逆である。東京では入口に向かって右が男性、左が女性である。
- ③ 今はどうか知らないが、当時は背中を流してくれる三助さんと、子供の着替えを助けてくれる女性が男湯にも居た。

キップを切らして下さい

当時は都電が発達し、乗りかえれば有名なところには、どこにも行けたし、安心して乗れた。キップは片道15円、往復

25円だったの、いつも往復で買っていた。往復キップの大きさは縦3cm横4cmぐらいの小さいもので、往復キップの往を渡す時は、ミシン眼に沿って、幅1cmぐらいを千切って渡すのである。

復のキップだけを持っていった時、車掌さんが「キップを切らせてください」と云うものだから、復のキップを差し出した。車掌さんは、ああ、いいですよ。と云わんばかりに、切らずに立ち去ってしまった。私は、キップを切ると云うことは、鉄を入れることだとばかり思っていたが、これは、まだキップを買っていない人は、早く買って下さい。と云う意味であることが後でわかった。日本語って本当にややつこしい。



平成21年9月15日午後2時15分、私は伝習館高校の修学旅行生19名（3グループ、男子12名、女子7名、うち文系14名、理系5名）と引率の先生の到着を、三菱東京UFJ銀行正面玄関前で待っていました。

ことの始まりは、たまたま伝習館東京同窓会学年幹事会の席上で、伝習館高校の生徒諸君が修学旅行で上京の際、将来を見据えた進路実現に向け目標意識を高めるために、「課題別研修」の一環として大学や公官庁・企業を、訪問していることを知ったのがきっかけでした。

最初に話を聞いて、学校や生徒諸君が自分たちのチャンネルで、訪問先を充分確保出来ているのだろうか。企業を訪問しているのだから、業種的に網羅されているのだろうかと思配をしました。

そして、もし訪問先の選定に苦労しているのであれば、私の古巣の三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）を斡旋出来れば、お役に立つのではないだろうかと思えました。

元来三菱東京UFJ銀行は九州に店舗数が少ないため、今でも地元柳川では知名度が低いだろうから、訪問実績もないのではないかと考えたからです。

就職希望調査で三菱東京UFJ銀行は、総合ランキング2位（全体）、男女別ランキング3、4位と上位にランクされている企業です。（日経就職ガイド 日本経済新聞平成21年2月23日付）

そう考えて、学年幹事会の席上訪問先企業について質問をいたしましたところ、伝習館東京同窓会で修学旅行生との交流会は実施しているが、「課題別研修」の企業訪問は学校と生徒諸君が自主的に行っているもので、詳細は把握していないとのことでした。

そこで、平成20年7月に開催された東京同窓会総会で、出席されていた伝習館

高校館長に挨拶を兼ねて生徒諸君の訪問先企業を伺ったところ、「学校や公官庁は訪問しているが、一般企業は訪問していない。」とのこと返事で、実態についての要領を得られませんでした。

3月上旬に、私から伝習館高校同窓会事務局に対して、学校側の希望があれば三菱東京UFJ銀行に訪問受入の可否を当たって見るが、学校の意向を打診して欲しいと依頼をしました。

折り返し同窓会事務局から、今年度は従来の訪問企業の変更も検討して居り、三菱東京UFJ銀行への訪問も検討したので、是非受入が可能かどうか打診して欲しいと、学校側の意向も踏まえた連絡がありました。

但し、現在春休み中でもあり未だ担当教師も決まっていないので、詳細は新学期に入ってから決まるとのことでした。

しかし、学校側の体制が整うのを待つていると夏休みに跨り、修学旅行の日までに双方の調整が付かないことも考えられるので、学校側の具体案が出来た段階で調整をすることにして、取り敢えず銀行側の受入の可能性を打診して見ることにしました。

当初銀行側は、ディーリングルーム（以下D・R）の見学受入は可能であるが、高校生はリクルートの対象に該当しないので、案内の他にレクチャーは前例がなく、今後同様の申込みが増えると、受入体制が間に合わなくなることを心配されていました。私の勤務先（大野興業株式会社）の取引支社に口添えを依頼する傍ら、学校側の目的・趣旨をよく説明し



修学旅行「課題別研修」企業訪問 三菱東京UFJ銀行 H21.9.15

ユールと研修時間の調整、質問項目に合わせた担当者の人選など、出来るだけ生徒諸君の期待に添えるように、協力を依頼しました。

最終的に研修内容は、銀行業務全般の説明は時間的にも無理なので、D・R見学の他に、人事部採用担当者とCSR (Corporate Social Responsibility) 推進部担当者から、①銀行の新卒者の採用方針と、②銀行の資金調達運用について説明を受けることになりました。

当日生徒諸君は、早朝地元柳川を出発して福岡から空路羽田へ、その足で丸の内東京駅に近い三菱東京UFJ銀行本店玄関まで、全員が疲れも見せず元気に到着しました。

CSR推進部担当調査役の歓迎を受けて、早速厳重な警護とセキュリティにガードされた別棟の建物内にあるD・Rに案内され、先ずCSR推進部企画グループ調査役から、VT Rを使ってD・R全般の説明を受けました。

て、特別に研修の受け入れの承諾を取り付けました。
その間学校側とは、生徒諸君が修学旅行で上京する前の週まで、到着時間の確認、研修訪問者のリスト提出、研修内容の打合せなど、メールでのやり取りが続きました。

一方銀行側には、修学旅行生のスケジ

した後、生徒諸君から寄せられていた質問「銀行はどのような人材を求めているのか」、その他銀行に就職を希望する場合の疑問などについて、質疑応答が行われました。

引き続き市場企画部企画グループ調査役から、D・Rの具体的な業務の説明と、事前に寄せられていた質問「銀行全体のお金の動き」について解答があり、質疑応答に移りました。

途中生徒諸君は、ガラス越しにD・R内のボードやコンピュータなどの説明を受けながら、その背後に世界を舞台に巨額の資金が飛び交っているのかと、デューラー（行員）たちの働く姿を、興味深げに見つめておりました。

人事部採用担当者からの話やD・Rの様子など直接見聞が出来て、生徒諸君には貴重な経験になったと思います。

実は修学旅行に出発する前に生徒諸君から、「課題別研修」の項目として約20項目の質問が、メールで事前に私宛に寄せられて居りました。内容は、

1. 銀行から直接説明を受ける方が望ましいもの
2. 銀行の組織や商品内容について
3. その他入社後の配属や担当、日常業務の様子、生活環境から勉強の仕方、社会人・銀行員としてのあり方

など3つに分類されますが、実に広範囲に亘る質問でした。

そこで質問に対する回答が訪問時間内に済むように、次の3つに分類をしました。

①銀行担当者から直接説明を受ける。

②書籍やパンフレットで理解して貰う。

③残った項目は、私から回答をする。

銀行内での研修（1時間30分間）を終えてから、道路を隔てた東京国際フォーラム（地下1階）に場所を移動し、質問項目2. と3. で未済のものを、私から回答と説明（約30分間）を行いました。

次の予定（東京同窓会との交流会）も控えているため、充分には意を尽くせませんでした。今後何か質問があれば私宛に問合せが出来るように連絡先を伝え、約2時間に亘る「課題別研修」の企業訪問を終了いたしました。

全員で記念写真を撮って解散いたしました。各グループに分かれて宿舎のリーガロイヤルホテルに向かう生徒諸君の後姿を、将来もし今回の訪問がきっかけで三菱東京UFJ銀行に入社する後輩が現れたら、私のDNAが引き継がれるような気がして、仄かな期待を抱きながら旅の無事を祈って見送りました。

ところで生徒諸君の話では、企業訪問は過去に実績がある先を中心に実施しているそうで、もっと色々な企業の中から訪問先を選べたらと、希望しておりました。

皆様方諸先輩に於かれましても紹介可能な企業があれば、生徒諸君の「課題別研修」の企業訪問がより充実するよう、是非ご紹介頂ければと思います。

お手伝いをして感じたことは、先生方も生徒諸君も企業と接触の経験が少ないので、企業訪問を実現するためには、こちらから積極的に協力を申し出て、密接なフォローと情報交換が不可欠という点

です。

ディスクロジャーや社会貢献に積極的な企業であれば別ですが、訪問者が高校生であることも含めて、単に企業を紹介するだけでは企業訪問の実現は難しいと思います。先輩として、また企業のOBとして、社会貢献のあり方も含めて、企業との粘り強い折衝が求められます。

私は、母校の生徒諸君がこれからの人生を順調に歩めるように、個人の主義・主張を伝えるのではなく、生徒諸君の目標や希望を側面から支援することで、少しでもお役に立つことが出来たら、一先輩として嬉しく思います。

今回の「課題別研修」の企業訪問実現に際して、伝習館同窓会事務局石原様には、一方ならぬご協力を賜りましたことを申し添えます。

以上

「趣味楽憂？」

高10 永倉素子（跡部）

夜半過ぎからの雷鳴と激しい雨音に目が覚めました。七月のミラノは天候が variability 易く、夜来の雷鳴と豪雨は、午前十

時頃にはすっかり止んで夏の強い陽ざしに変わります。

二〇〇九年七月、リコーダーの大きなバス笛を担いでミラノ北サロ市の「ティニャーレ・イン・ムジカ（音楽）」の講座への参加です。海拔八百米のティニャーレ村は、冬は北側のドロミテの山々がアルプスの冷たい風を防ぐため温暖で、夏は連日雷雲が沸き上がり雷鳴轟き、ひととき俄か雨が降る涼しい避暑地でもあります。

飛行機が嫌い、雷が怖い、普段でも京都上賀茂神社の雷除御守を持ち歩く私が、飛行機に乗り雷は震えながらも我慢出来る状態は、まさにバス笛の御利益というものでしょう。

一九八〇年頃、誘われて気のりしないま、地元の合奏団に入ったのがリコーダーとの出会いでした。どっぷりと浸り込んだのは十年前に、田中せい子先生とダニエレ・ブラジエッティ先生（ミラノ音楽院 ミラノ国際アカデミーの講師）夫妻に個人レッスンを受ける様になってからです。「出来るまでゆっくり待つ、音色を美しく豊かに、相手にしゃべりかける様に、基礎から正しく」という指導は、自分の音色が少しずつ変わっていく喜びで、二〇〇年近く迷っていた私をリコーダーに引き込んで行きました。そして六年前からは、銀座ヤマハリコーダーオーケストラにまで入ってしまう始末です。

ティニャーレ・イン・ムジカは、ミラノから車で約二時間半のガルダ湖畔、サロ市が催す講座で、北イタリアから講師を招いて、フルート、ヴァイオリン、リ

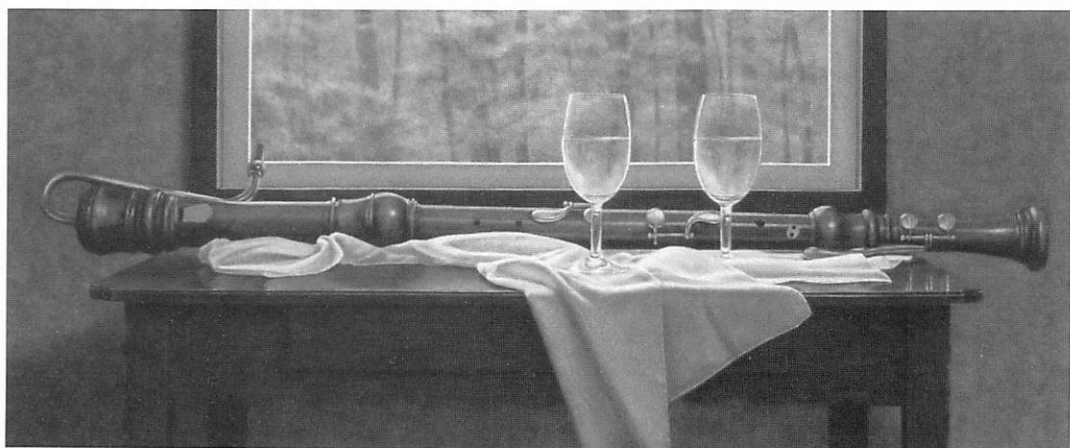
コーダー等の講習が一週間村の小学校を開放して行われます。受講者は貸ヴィラやホテルに宿泊し、九時から五時までお昼休みの二時間を除いて受講し、最終日には修了証が授与され、受講者の発表コンサートが無料で公開されて、村の人達やバカンスで滞在の人達に聴いていた、のです。

この数年、せい子先生とダニエレ先生が講師として招かれ、二〇〇八年二〇〇九年と続けて私は受講したのですが、イタリア語は初級も覚束ないのに笛を担げば、不思議な力が湧いて飛び込んでしまう無謀さ。二〇〇九年は日本からは女性の同行者がいなくて、夫を巻き込んだの参加となりました。

音楽は好きでも笛を吹かない夫は、自分の夏休みを合わせて取ってくれて、空港での荷物番兼自分のバカンス、独語が少々可能な夫は独語の通じるサロ市は好都合でした。戦前、サロ市はヒトラーやムッソリーニに縁のある都市だったからです。一人で村を散策したり、ビール（カフェ）でカプチーノを飲んだり、あるいは練習風景を撮ったりして先生に感謝されたりと、マイペースでゆったりと過し、夜はダニエレ先生達と毎日が晩餐会でワインを楽しむ日々でもあった様でした。（私は昼食で満腹、夕食はキャンセル）会話でのストレスは、笛を吹いている時間が長いのでそれ程感じず、ティニャーレ村やミラノの人々の親切な心づかいに接し、快適にバカンスを夫と共に過ごせたのもリコーダーからの賜物です。しかも前年夫婦で参加されたパオラさん

が、先生ご夫妻と一緒に夫と私をミラノのお宅に招いて下さり、トラム（市電）と地下鉄を乗り継いで何う事になったのです。

パオラさん宅は、イタリアで初めてエレベレストに登頂された方の子孫とかで、ノンナ（お祖母様）の遺産として受け継



リコーダーのバス笛約98cm。3つに分解してケースに入れて持ちます

いだ建物は、立派な石造りの四階建てで、同族が住み分けておられます。お客の来訪と知った従姉さんが『何ごと?』と訪れたり、十代の美しいお嬢さん、バオラさん夫妻と、大はしゃぎの犬のノーチエ(くるみちゃん)の出迎えを受けての夕食会でした。窓や扉は開放たれ、薄明りの中でご夫婦手作りのフルコースをおよばれし、蚊取り線香が焚かれていたのには驚き(しかも日本製)蚊の多いミラノでは、蚊にまで歓迎され、かゆいお土産までいただきました。

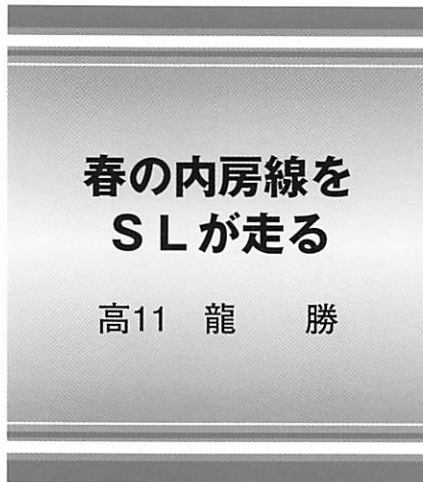
約三十年前、ただ誘われて始めたリコーダーから、沢山の友人や異文化に接する機会をもらい、今、様々な経験をしています。

目の不自由な受講者エレナは、盲導犬と共に、バスを二回も乗り替えて参加し、盲導犬ベツキーの言葉の理解度に私は発奮し、九段南のイタリアア文化会館の語学講座へ入門したり、NHK趣味悠々の講師吉沢実先生指導の銀座ヤマハリコーダーオーケストラの練習や宿題は難しく、イタリア語と共に趣味悠々とはいきません。憂々として宿題をし、東京同窓会幹事会とよくぶつつかる土曜日は、ドタバタと途中で抜け出し事務局の千鳥屋さんから銀座へと走るのです。

宿題では気分憂々ながら、個人レッスンでは、若い日伊の先生夫妻の指導で、イタリア語の音楽用語が今までの解釈と異なる事等、目からうろこ(イタリアでは目から生ハムを剥がすというそうです)の事が多く、知る事の楽しさと活力をもらっています。そして少しでも褒め

られると嬉しくて練習に励む、のぼせ者の遅ればせの反省は、「子供をもっと褒めて育てればよかった。この嬉しさを、もっと味あわせたかった。」です。

宿題には憂々としながらも、銀座ヤマハリコーダーでは、出来たての曲を仲間と合奏する楽しさ(仲間に若いプロの作曲家在)や、地元での音楽の出前のボランティアでやめられないリコーダー。これが私の趣味楽愛です。

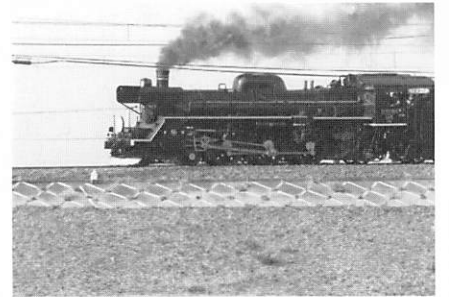


房総の春の観光キャンペーンの一環として3年前からすっかり定着した感のある『SL春さきどり号』が平成21年も2月13日~15日に京葉線千葉みなと駅と内房線木更津駅間で一日一往復の限定で運行されたので撮影に行ってきました。

当初計画ではデゴイチの愛称で知られているD51が走る事になっていましたが、釜の空焚きという全治数年の事故故に遇いイベントの中止が取りざたされていたので諦めかけていましたらスマート



SL出発



SL疾走



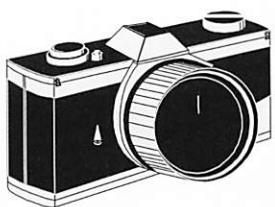
SL到着

な美しい姿から貴婦人の愛称を持つC57がピンチヒッターとして登揚してSLファンやら観光客等を喜ばせてくれました。私も安物のカメラを担いで三日間とも日参しました。前回及び前々回は運良く試運転の段階から追っかけられたので撮影場所に適した場所をじっくりと選定できたのですが、今回は他の所用と重複したためぶっつけ本番となってしまったので、まずは確実に一枚をゲットすべく1日目はスピードを落として駅(五井)のホームへ入ってくるところを橋上駅の渡り廊下から狙いました(写真・SL到着)。

1日目はまずまずだったので2日目は蒸気を吐いて黒煙を上げた迫力のあるところをと思い、出発する姿を姉ヶ崎駅で狙ってみました。あの昔懐かしい汽笛を同窓生の皆さんにお届けできないのが残念です(写真・SL出発)。1日目、2日目と自分なりに満足できるのが撮れたので最終日はダメモト覚悟の上で、緩やかな上り勾配をカメラマンや見物者への

サービスも込めて黒煙を上げて疾走する姿の撮影に挑戦してみました(写真・SL疾走)。妻に『架線・電線が邪魔ね』と言われてしまいました。現代の鉄道事情と私の未熟な腕と安物のカメラではいかんともしがたいもので、楽しい3日間を過ごさせてもらったことに感謝しました。

1日目、2日目は気持ちの余裕がなかったのですが3日目になって少し余裕が出てきて、周囲をなんとなく眺めていると、上り勾配を走ってくるところを狙える一番人気の撮影場所に並んだ高価そうなカメラの放列に改めてSL人気の根強さを実感しました。



『青春のパイプライン』

【授業篇】

高18 福山博彰

青春時代には様々な出来事がありました。

その殆どは初めて経験することはばかりで、もし今の自分がその場面に遭遇したならば、もっとうまく立ち居振舞うことができたのではないか、もっと違った展開にすることができたのではないかと、大変悔しく残念な気がしてなりません。でもその時はそれが精一杯の対応であったことで、こればかりは何とも仕方がありません。

「過去と現代とを結ぶ時間のパイプライン」、今回は過去二回の異性に対する思いの《片思い篇》、《邂逅篇》とは趣を変えて、学生の本分である勉学に関わる硬派の話です。(少し長くなりますが、ご了承下さい)

今考えると、この出来事はその後高校の名が全国に知られることとなる問題・紛争の前兆であったと言えるでしょう。

その出来事は昭和四十一年秋、三年九組、漢文の授業の時に起った。

先生が授業を始めますと言うや否や、原田君が急に手を上げて発言した。

「先生、質問があります。」

「……何ですか？」

「漢文は、孔子から始まり老子・孟子の思想が反映されているとのことですが、一体何故これを、何千年も昔のことを現代のこんなに離れた遠い日本で、しかも中国語ではなく日本語で学ばなくてはならないのでしょうか。」

この生徒は一体何のことを言っているのかしら、とでも言ったそうな先生の顔。

「ええ……、授業には直接関係ないと思いますので、後にして下さい。」

「いえ先生、そもそも漢文を習う意味や意義が分からなければ勉強にも身が入りません。是非教えて頂きたいと思えます。」

こうして漢文の読解とは離れた、漢文習得そのものの意味を問うそもそも論から、このやりとりは始まった。

彼の論点は次第に飛躍拡大し、漢文の基礎となつている孔孟思想の歴史的意義という大所高所の議論へとエスカレートしていく。

「儒教の教えや老荘思想が一体その頃の人民に浸透していたのでしょうか。また現代の中国国民に影響を与えていると先生は思われますか、いかがでしょうか？」

「……ええ、……それはですわね……」
先生が答えられないことを確認すると、彼は自分が前もって用意していた論

旨を述べる。

「——と、この様に思いますが、先生はどうお考えになるでしょうか。」

「……まあ……そうなのではないでしょうか……。」

この様に教師の同意を誘うかと思えば、専門家や研究者でなくては即答できないような質問をして相手を黙らせるパターンが続いていく。

級友達はと言うと、男子生徒ばかりのクラスであるが、初めは興味深げに原田の話面白そうに聞いていたが、その内だんだんと論点が漢文や論語とはかけ離れたものになっていくにつれ、何かちょっと違うなという感じを持ち始めてくる。

実はこの日原田が質問から初めた行為は全く唐突ではない。これには伏線があるので。この前の漢文の授業の際に、授業を聴かずに私語ばかりしていたところを注意されたにも拘らず、繰り返しやつたので先生がついにキレて、教壇の上からチョークを投げつけ、前へ出てこいと怒鳴られたことが発端なのである。これに頭に来た原田は孔子・老子・荘子・孟子等の中国思想とその歴史的背景・意義について極めて用意周到に深く勉強した(はずである)。そしてイデオロギー論という自分の得意な分野で勝負することに、自分が恥をかかせた教師に対し「この間の遺恨忘れたるか」とリベンジすべく手ぐすね引いて今日の授業に臨んでいたのであった(に違いない)。

ここで原田伸雄君のことについて少し触れよう。彼は一年の時から弁が立ち、生徒の間では正論ながら物事の変わつた見方をする、言い換えれば少し偏向的思想の持主として一癖あるが目置かれる存在であった。三年になって政治経済担当の偏向教師が現れたものだから共感を得られる同志としてその教師に心酔し、終始べつたりの感じに私には思えた。教師の思想の影響が強かったというより、彼の考え方が肯定、増幅されたのではないだろうか。

「儒教では、国を治めるやり方として、徳による王道と武力による覇権が論じられており、この王道こそが天下を治めるべき道であると説いています。しかるに中国という国を論じる場合、常に考えておかなければならないのは、一口に中国



と言いますが実は領土の大きさが時代により地理的に違い、また支配民族、被支配民族がそれぞれ異なることであります。この地域を越え、時代を超え、民族を超えてこの王道論は成立するものなのかどうか、先生はこの点どうお考えになりますか。」

「……私には……その辺のことは、難しく……よく分からないですが……」
「私はこう考えます。紀元前五百年、今から約二千五百年も前に孔子がその道を説いた時代から、その後老子、莊氏が唱えた老莊思想、さらに孟子の説いた教えに至る孔孟の教えは、その精神基盤を徳治主義に置いており——。」

先生もどちらかと言うと気が弱そうな、毅然とした態度が取れないタイプの人だったので、原田の執拗な攻勢に対して正論で戦うことも身をかむことも出来ず、ただ顔を赤くして防戦一方に追い込まれてしまっている。反論として一言二言は応えるが、その後原田が何分にも亘り自説を滔滔と展開して述べては、また別の質問をすると風で、先生はどんどんと砂地獄に嵌って行く。

授業時間がどんどん過ぎて行き、級友達もその内いいかげんにしてくれよと言わんばかりのため息と、誰か彼にも言う者はいないのかと、キョロキョロと他の人の反応に目を向けるが、そんな仕事が目立つだけで、この論客に挑もうとする者もいなければ、クラスのボスの存在の者もないので打開策がなく事態の収拾がつかない。

「中国においては、なに故に何千年もの間、かのレーニンのロシア革命のごとくプロレタリアートと言われる層の台頭がなかったのではありませんか。それはこういうことですか——。」

「かのマルクスが提起した階級闘争なるものが、中国では古代から現代まで果たしてあったのではありませんか。あったとすればどのような形でそれは具現化してきたのでしょうか。現代になって毛沢東が出現してきますが、これはこう考えるべきなのであります——。」

出たあ、あいつの普段から言っている本音がついに出てきた。

話の内容が漢文から完全に乖離してイデオロギー論争になっていく。自分の得意な分野に相手を引きずりこんで一方的に論争するやり方、これは極めてずる賢い。

それにしても……待てよ、これは一体何なのだ？ ……そうか、分かったぞ！彼のやっていることは、かの煽動教師が他のクラスのテストで出した問題、「マルクス・レーニン主義について述べよ」だとか「毛沢東語録について述べよ」等々についての口述解答をしているつもりなのだ。

一つのイデオロギーを無批判に支持することは、常に支配的階級が排他的・抑圧的に被支配者層に被せる、偏向した虚偽的且つ欺瞞と傲慢さを含んだ「主義」という名の「偏見」である、と「人道主義」の筆者（私）は考えているのだが……。

ん？ ……何を言っているのか分からんげな？（笑）。

彼のやっていることは、孔孟思想までは良かったのだが、後半は共産主義を称えるプロパガンダの一環である、かのアカ教師の分子として活動しているのだ、「偏見」を煽動している、と少なくとも私にはそう思えた。

ロマノフ王朝から政権を奪って成立したかの共産王朝は、この時点で既に五十年が経っており、米國と並ぶ大国になっていたが、彼ら信奉者が理想としていたその体制が、この二十五年後に馬脚を現わし脆くも崩壊するなどは彼らも予想だにできなかったことであろう。

やがて授業時間も大半が過ぎたと思われる頃、先生が一言も反論できないことでの息の根を止めた勝利を確認したその弁論者は、言いたいことを全部言っつきりしたのであるう、やっとその矛を収めた。

やれやれ、やっとなら終わったかと本来の授業が始まることになったが、五分も経たない内にチャイムが鳴り、殆ど授業にはならなかった。原田はと見ると、してやったりといった涼しい顔に少し笑みを浮かべている。

原田が授業を邪魔したことに腹が立ったが、思想的なものとは別として彼の弁舌・論旨・論拠の素晴らしさには、すごい奴がいるものだとは私は痛く感心し、同時に彼の暴走を阻止できない自分の勇氣

の無さ、能力の無さを恥じ、ふがいなさも感じた。

しかし別の観点から、ある種の教訓、重要なことを学んだ気がする。

それはケンカの仕方と用意周到さ、そして毅然として対処するという心構えである。敵を倒すには方針・計画を立て敵を知り己を知り、戦略を練ってこそ勝利へと導かれるのだ。

また防衛側の教訓として、相手の攻撃に対しては早い段階で、自己の信念に基づき攻撃行為そのものが違法であることを主張、自分の領域に立ち入らせないと、あるいは真つ向から受けるばかりでなく、時には身を翻して攻撃から身をかわす、まともに相手をしないことも立派な戦法だ。

この授業での出来事は後に実社会に出てから、様々な意見の発表・プレゼンテーション、相手先との交渉の場面、あるいは顧客・取引先からの筋違いの依頼・理不尽な要求・クレーム等があった場合に「使える（＝有益な）教訓」として活かされたのではないかと思います。

学校で学ぶことは、何も教科書の知識というハード部分だけではなく、人と人との関係、コミュニケーションというソフト部分も極めて重要です。

でも実はこれが非常に面倒で難しく、実社会で何度も経験して学んでいくしかない現実を感じている次第です。

以上

学年幹事より

35年目の『ふくの会』

高5 田中禮二・古賀 弘

昭和29年に新制高校の5回生として卒業後、20年目の昭和49年4月に渋谷の中華レストラン「獅子林」で初めて開かれ



平成21年11月11日 第29回「ふくの会」 於 パーク芝浦 クオン

てから、この平成21年11月11日（水）の開催で35年目になりました。

場所は、知る人ぞ知る海辺のパーク芝浦14階のレストラン オーシャン・デイツシユ クオン。パーティールームから東京のオアシス——お台場・レインボープリッジの眺望を楽しみながら、贅沢にも正午12時からの懇親会に引続き2次会まで3時間30分にわたり心行くまで旧交を温めることができました。

昭和10年（1935）生まれ所謂、後期高齢者一歩手前の74歳の同期会ではありますが、今回は出席者が26名と齢のわりには非常に多い集まりとなりました。談笑のあちこちでは、孫の自慢話や、自分の病気の自慢話し？ や、にわか医者が個人指導したりと、微笑ましい光景が見うけられました。

今回は、素晴らしい眺望や、フランス各地で修行してきたコック長自慢の美味しい料理が賞味でき、更には阿津坂林太郎君の豁らいで、地元大木町の掘割で全国ではほぼ全滅状態にある「ひしの実」が池上了一君から惠贈されました。幼い頃しか食した記憶にない珍味を久し振りに味わいながら思い出に浸っておりました。また、お開きには柳川の銘菓「越山もち」を土産に次回の30年目の同期会を楽しみに三々五々家路につきました。

高6回(昭和30年卒)だより 「三稜会」の報告

高6 石橋 修

春の訪れを感じさせる平成21年3月8日、隔年開催が定着した「三稜会」が前回に続き、新宿三井ビルで開催されました。

今回で連続4回の3月8日開催となりました。時あたかも柳川では「雛祭り・さげもんめぐり」の季節。柳川在住の古賀勇生人君から沢山の切手シートと絵はがきが届けられ、みんな懐かしそうに手にして眺め、貰って帰りました。古賀勇生人君ありがとうございました。

さて、会は正午に池田勝嗣君の司会で始まり、川口健寿郎君の開会挨拶に続いて、戸上軍治君の乾杯の音頭によって一気に盛り上がって行きました。

ひと通り料理とアルコールが腹に収まった頃を見計らって、池田勝嗣君の司会進行により、全員の近況報告となりました。健康法については、元アスリートの古賀（城島）祥子さんの発言にみんなの期待と注目が集まりましたが、「特に何もやってません。犬の散歩くらいです。」に全員拍子抜けしました。しかし、続いて「でも30歳から家で毎日30分ほど自己流の体操を続けています。」の言に、みんな古賀祥子さんの均整のとれたスタイルを改めて見直し、納得しました。

プラント・エンジニヤリングの高度の



出席者
前列左から
岡田哲也 池田勝嗣 服部尚子 古賀(城島) 祥子
木村(松本) 峯子 井出(吉開) 由紀子 白谷茂満 荻島直記
後列左から
大旗哲也 古賀譲次 田中 稔 川口鍵寿郎 高木 健
井出 真 戸上軍治 石橋 修

スキルを保有する大旗哲也君。彼の指導を求める各国の要請に応えて、今なお世界を飛び回って活躍中。当日も三稜会のあと、最終便で香港へ飛ぶんだとか。
大旗哲也君ご本人は、現役としての指導は75歳でキッパリ足を洗い、その後は、

お孫さん始め、ご家族を連れて、技術指導した国々を廻るのだと、どこかの総理大臣に聞かせてやりたい、明確なビジョンと計画を披露してくれました。

高木 健君からは、三稜会も趣向を凝らせば、三、四十人が集まる賑やかな会になるとの心強い提言がありました。今回は高木コンサルタントの指導と協力を得て盛大で楽しい同期会にしたのもです。岡田哲也君がBoJoyのオリーブオイルを参加者全員に手土産にと持ってきてくれました。貰って帰った女性方と殿方が持つて帰って渡された奥方は綺麗な肌になり、素晴らしい健康効果を楽しめること間違いありません。岡田君ありがとうございました。参加者を代表してお礼申し上げます。

最後は全員で「伝えて習う……」と「白雲なびく」を斉唱してしめくりました。「伝えて……」の校歌は我々が在校中にできたもので、当時、音楽部の古賀譲次君は校歌練習のピアノ伴奏でしよちゅう引つ張り出されていたと述懐していました。

そして、木村(松本) 峯子さんの「次回また皆さん元気に集まりましょう」との締め挨拶で散会となりました。

第8回(昭和32年)卒同級会開催

高8 樋口誠佑

第8回(昭和32年)卒同級会を、平成21年9月2日虎ノ門パストラルホテル(東京都港区)で開催しました。関東近県在住者28名(出席率42%)、



福岡県立傳習館高等学校第8回(昭和32年)卒同級会 於虎ノ門パストラルホテル(H21.09.02)

九州から上京者3名の計31名が出席し、女性も多数(12名)参加されて盛会でした。幹事からの経過報告、地元柳川の近況報告の後、乾杯して懇親会に移りました。

第8回(昭和32年)卒同級会出席者名簿(敬称略、アイウエオ順)

- | | |
|--------|-------|
| 池上 藤則 | 池田 孝人 |
| 一色 康子 | 市川 玲子 |
| 岩井 治子 | 内田由美子 |
| 大村 泰生 | 川口 融 |
| 川原 通司 | 木下 清治 |
| 堺 八郎 | 嶋本 幸子 |
| 高石 順子 | 田代 桂子 |
| 津留 京子 | 豊島 黎子 |
| 中川辰之輔 | 永倉 正彦 |
| 中村 清美 | 西原 勝利 |
| 橋本 吉弘 | 羽鳥ヤス子 |
| 樋口 誠佑 | 松本登四男 |
| 村岡ハルノ | 本木寅三郎 |
| 吉開 健二 | 龍 敏之 |
| 九州在住3名 | |
| 池田 繁造 | 竹下 学 |
| 平岡 勝子 | 合計31名 |



くっぞご会

高12

小野アケミ



第27回「くっぞご会」 2009.10.25 東京都中央区銀座「結」
高校12回生 出席者36名
撮影：野田幸治（12回生）

なんしよる会

高21

白谷政則

なんしよる会は高20回卒関東地区同期の集まりです。平成の初め頃東京同窓会は現在のような盛会でなく、出席者は総勢百五十名くらい、同期は2〜3人ずつバラバラに着席していました。

言いだしっぺ

そんな中、高巢和登君は出席者名簿を片手に各テーブルをまわり同級生を一人づつ探し出し一緒にテーブルにまとめ

『同級生の少なかね！』

『一人やったらとぜんなかバイ』

『今度自分達だけで集まろう』

『うん、そげんそげん』というような事を総会の度に何度も繰り返し

『あんたは来ると思よった』

『また会うたね』と常連も少しづつ増え

『今度こそ同期会ばするバイ』となりま

した。

ようやく一回目

高巢君の奔走により二十名が集まり、平成八年ようやく最初の同期会が開かれました。卒業以来初めての方とはお互い初めましての状態だったが自己紹介が進むにつれ「ワーわからんやっつた」の歓声と共に一気に高校時代に戻ってしまう。

昔話に花が咲き予定の三時間を過ぎても誰一人席を立とうとせず、急遽二次会を設定し飲み食い喋るの五時間はあつという間に過ぎ「また集まるバイ」と約束してお開きとなりました。

誰か幹事を！ なしけん？

再会の約束はしたが当時我々は40代、「仕事忙しか」「子供が受験なので」誰も幹事を引き受けない。「伝習館にはあんたがいつじゃん世話になったつじやろが」20回入学21回卒業と四年間在籍した私に役目が回ってきた。そんなこんなで二度目の開催まで七年かかったが会えば「また早よ次ばして！」となり間隔も短くなってきました。

ネーミング

関東地区には60名以上の同級生がいまが半分くらいの方が同窓会や同期会に参加されていません。同級生が集まるのだから気楽に参加できるように親しみある会の名前を考えました。久しぶりに会った友達に言う「なんばしよつとかい」をそのままの名前にしようと思案があったが、なんば難波・しよつとシヨットと大阪のゴルフ会のごたるとの意見がありなんしよる会に決まりました。

最近の催促が…

景気はどん底、総選挙は先延ばし、追い討ちは新型インフルエンザ、こんな時

集まろうと言ったらノー天気な奴とバカにされないか躊躇していたら六月終わり頃「なんしよる会はせんと？」と立て続けに電話があった。待ってる人がいるならやらなきゃと案内をしたところ、仙台、金沢、大阪からの参加者もあり、はたまた後輩から「自分達もかたせてもらえんですか」と総勢38名でにぎやかな会になりました。やっぱりこんな時こそ元気の源として同郷の言葉が空気がほしかったのでしようね。

これからは…

多くの人が集まれば気の合うもの同士趣味が同じ者同士話はずみ色々な計画があるようです。早速ひと月後には郷土料理を楽しむ「だご汁会」からお誘いを受け、ガメ煮、くつぞこ、そんほかいっぱい、もちろんだご汁もよばれてきました。これからも旅行、コンサート、映画、ゴルフ等色々なグループからお呼びがあるかもしれません。今から楽しみます。今までの開催は次の通りです。懐かしいなあーと思ったらぜひご参加下さい。

H. 8 9 / 7 (土)

ホテルグランドパレス

相見(松雪) るり子 荒巻和徳
井口(古賀) ちづ子 今村隆信
大熊(緒方) 清美 岡 賢二
海東(吉田) 信子 梶島(渡辺) 豊子
梶島(宮崎) 光香 菊池(石井) 史子
児玉(平山) あけみ
塩田(中村) 佳世 白谷政則
田口(井上) ケイ子 高巢和登

東 寛治 宮島政信
山田雄二 弓削讓二 横山光治
H. 15 9 / 27 (土)

麻布十番プレゴ

青木(原尻) みな子 荒巻和徳
井口ちづ子 石橋康治 浦川直美
岡 賢二 海東信子 古賀栄樹
古賀輝博 児玉あけみ 近藤敬介
塩田佳世 白谷政則 高巢和登
高松(江口) 信子 田中耕一郎
東 寛治 広松洋二 龍 章夫

H. 19 10 / 27 (土)

プレゴ

荒巻和徳 井口ちづ子 石橋康治
浦川直美 岡 賢二 海東信子
古賀輝博 近藤敬介 白谷政則
高巢和登 高松信子 東 寛治
龍 章夫 高田健二(23回生)

H. 21 9 / 12 (土)

六本木ピアットピアット

井口ちづ子 石橋康治 浦川直美
岡 賢二 海東信子
加隈(木村) 明美 児玉あけみ
近藤敬介 白谷政則 高巢和登
高松信子 東 寛治 東富士子
藤丸昭徳 細野一郎 龍 章夫
網谷 慎 橋本高明
及川(中原) ちづ子
嶋田(平川) 秀子
松下(古賀) 久美子
23回生7名 24回生6名
28回生2名 36回生2名

追記

今年の東京同窓会の幹事は20回生です。色々準備がありますので、受付の2時間前にお集まりください。お手伝いお願いします。



賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いづれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

ふるさと瓦版

柳川弁うんちく帖 ⑮

「ふなやき」

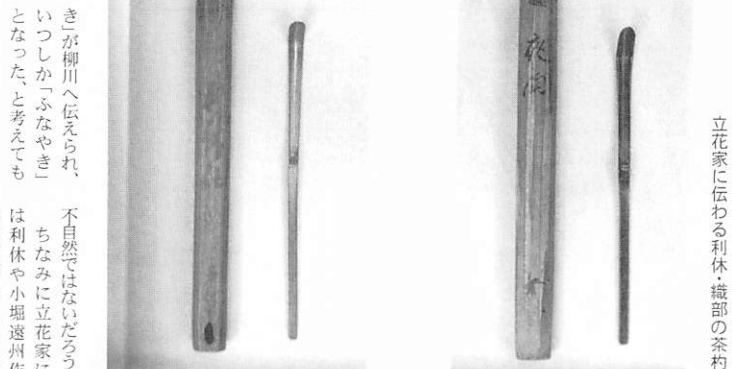
柳川地方でおやつ代わりに食べられる「ふなやき」は、水溶きした小麦粉を油をひいたフライパンなどで薄く焼き上げたもので、クレープみたいなもの。黒砂糖などをほさんで二つ折りにしたり、丸く巻いたりして食べる素朴な菓子である。語源に「舟焼き」説があり、漁師や舟人が舟の上で空腹を満たすため作って食べた、という説があるもの、そんな実例を見たことや聞いたこともない。これに對し「ふのやきがふ

砂糖を混ぜた味噌を塗り、棒状に巻いたり扇型にたたんで、茶と料理の間に客に出したという。

茶聖利休の奥儀を伝える秘伝書「南坊録」の著者については多説あるものの、立花実山が博多や堺で収集した資料を編纂したのではないかと、という説が最も支持されている。立花実山は福岡の黒田藩士だが、元の姓は萬野氏。福岡県古賀市や新宮町一帯の領主で、実山の曾祖父・萬野三河守増時(ごも)・みかわのかみ、まさときは立花道雪公の家臣となつて立花姓を許され、息子の立花也家に道雪公の跡を継いだ立花宗茂公の実妹を正室に迎えた。ほど信頼が厚かつた。増時は宗茂公が柳川

城主に移封されたとき、支城の城島城主(現久留米市)となり4000石を与えられている。この時、小野和泉守は蒲池城を預けられ5000石の筆頭家老になったが、増時はそれに次ぐものであった。関ヶ原決戦で徳川の世となり、西軍についた宗茂公は改易され、増時親子は福岡藩主となつた黒田長政に旧知行と同じ4000石を拝領して仕えることになるのだが、増時はそれを息子の也家に譲り、自らは道雪公の墓守を希望して立花山麓へ帰郷する。1623(元和9)年、増時81歳で没。生前に道雪公から恩賞として許しを得ていた道雪公の隣に葬られた。福岡県新宮町の福厳山梅岳寺の墓所を

訪れると、奥の墓所の中央に道雪公の義母・養孝院、その右側に道雪公、左に増時が眠っているのは以上の経緯によるものである。さく話には「ふなやき」へ戻る。茶道は戦国大名や武将が心得るべき作法で、茶会には重要な重みを持つ外交戦の場でもあった。利休やその高弟が仕切る茶席に、立花宗茂公も席を得たこともあったから、そこでも口にした「ふのや



立花家に伝わる利休・織部の茶杓

こうじんさんのすみ

おどんがこまか時にや、朝、小学校に行く時、おつかしやんが、かならずくどさんの荒神さんの炭ば、頭のちよんちよんさんに、にしくりつけてやらした。学校に行ってみると、だっでんつけてる、つけとる。そんなかでん髪ばつんですぐんもんは黒々としていた。

三年生か四年生ごろまではそうなかばつてん、五年生ごろになると、ちったおかしゅうなつて、おつかしやんのつけてやろですさすと「せんでよか」ちゅうて逃げ回ったが、ひつつかめられて黒々と

荒神さんの炭ばつけられたもんたい。

ふとなつて「なしけん荒神さんの炭ばつけやんと?」ち、おとつちゃんに聞いてみたりや「荒神さんな火の神さんで、この辺な堀の多かけん、お前どんが堀にへえつて溺れ死なんごつたい。火の神さんな水とは仇じゃけんね。お前どんば守つてくれらすとたい」ち、話してくれらしたもんたい。

鶴陽会三瀆支部「みずま」

「大木の民話」より

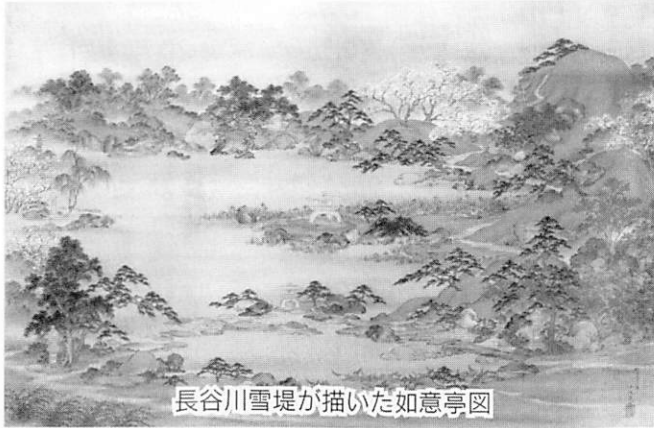
不自然ではないだろう。ちなみに立花家には利休や小堀遠州作の茶杓が伝えられていて、福岡県立美術館で今年1月に開かれた「柳川・立花家の至宝」展に展示されたのを、目の当たりにすることができた。

「ふなやき」など小学生の時以来食べたことがない。そこで50数年ぶりに焼いてみたら、黒砂糖が溶けて流れ出した。それを慌てて口にしたら、甘くほろ苦い黒砂糖の味が、遠い日の母の面影が蘇ってきて、鼻の奥がツンとした。

【企画・柳川ふるさと塾・文・原達郎】

如意亭

如意亭は、江戸の柳河藩上屋敷にあった庭園です。今回刊行した『柳川の漢詩文集』に収録されている「如意亭八景同十二景」という史料によれば、3代藩主鑑虎が上屋敷東庭の池の水の流れをつけようとしたが、元文2年（1737年）に5代藩主貞俣がそれに成功したとされています。そして、その流れを眺め



長谷川雪堤が描いた如意亭図

53

るため、竹を柱に使い、苫で覆っただけの亭舎を造ったのが、如意亭です。その名の由来は、意のままに移築することが出来る簡単な造りであるためとしています。このことから、上屋敷の東庭園は以前からあり、元文期に藩主貞俣の手によって改変が加えられ、簡単な東屋が備えられるに及んで、如意亭と称されるようになったことがわかります。

そもそも「如意亭八景同十二景」は、藩主貞俣が安東守経らに命じて作らせた漢詩です。元文3年と同4年に作られているので、如意亭の完成を祝って作成させたものと思われ、その漢詩から、池の水は尽きることなく流れ、その流れには水車も備えられていたことがわかります。園内に配置された岩には、夜になると灯火が掛けられ、夜に眺めてもまた趣があったようです。春は園内に咲き誇る草花、夏は暑さを忘れる納涼の場、秋は池の水面に映る月、冬は晴れ渡った青空と園内の雪景との対比、如意亭には四季それぞれの風情があったようです。

また、園内からは神田の家並みや湯島聖堂、寛永寺、江戸城を眺めることができ、遠くは富士山や足高山（愛鷹山）、箱根の山々を望むこともできたようです。夕刻になると、浅草寺の鐘の音が聞こえてきて、聴く人に深い感慨を呼び起こさせました。

「如意亭八景同十二景」以外にも、幕末の絵師長谷川雪堤の手による「如意亭図」（左上写真）によってその様子をうかがい知ることができます。この絵画では、池の周りに松や柳が植えられていて、桜やカキツバタ、ツツジも見えます。それらの花はいずれも満開で、萩は紅葉しています。つまり、この絵画は特定の四季の一場面を描写したのではなく、園内の樹木や草花のそれぞれの盛りが一画面に描き込まれているのです。

貞俣が整備した庭園にその後、手加えられたのかどうかわかりませんが、如意亭が参勤した歴代藩主や江戸詰めの藩士たちの心を和ませていたであろうことは間違いありません。

市史編さん係 白石直樹

六 騎 「やながわむかしばなし」柳川市観光パンフより

熾烈な合戦が続いていた源平時代。戦に敗れた平家の難波善良、加藤藤内、浦川元左衛門、鳴神藤助、是永多七、若宮兵六の六名は、追手を逃れて川づたいに歩き続け、たどり着いた地が柳川の沖端でした。彼らは「六人の騎馬武者」の意味から「六騎」と称し、この地で漁師となって生計をたてるようになりました。

ある夜、六騎のうちの一人が「伊勢神宮に参拝すればご神鏡を授けられる。それで氏神様を建立せよ」というお告げの夢を見ました。夢のおりに伊勢へ出かけ、授かった欠けた鏡を持ち帰って氏神を建立したところ、その近く

で毎夜怪しい光が出るとのうわさがたちました。光が出る地を掘り返してみると、不思議なことに欠けた鏡とぴったり合う鏡が出土。これが六騎ゆかりの神社・矢留大神宮の縁起になっています。



旧柳河藩内の神社の神門

問い合わせ
市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)

旧柳河藩内の神社の特徴の一つに神門の存在をあげることができるといえる。その形式には楼門、八脚門、四脚門がある。ただし、楼門と四脚門はわずかで、隨身門形式の八脚門が圧倒的に多い。それは、藩内の3割を超える神社で確認できる。市内の神社では宗教学人名簿記載183社中、61社に設けられている。ここでは最も多い隨身門形式の八脚門の特徴について紹介していく。なお、この地方では構造形式に関係なく八脚門、四脚門でも「楼門」と称されている。八脚門は正面の柱間が三間、側面は二間で、柱は全部で12本ある。中央を通路として、そこに向くように手前に狛犬、拜殿側に矢大臣を安置する。屋根は、ほとんどが入母屋造で、切妻造は全体の15%程度である。柱の形状は、全て角柱とする場合、

すべて円柱とする場合、通路中央の中柱2本のみ円柱でほかを角柱とする場合、に分けることができる。屋根と柱の形状の組み合わせで現存する遺構の出現時期をみると、①切妻造ですべて角柱が最も早く、次に、②入母屋造ですべて角柱、続いて、③入母屋造で中柱のみ円柱、そして、④入母屋造ですべて円柱、の順となる。遺構数では④が全体の半数を占める。これら以外では、⑤切妻造で中柱のみ円柱、⑥切妻造ですべて円柱があり、⑥は昭和戦前期の建設が多い。

江戸時代の神門の遺構は全体の3割程度で、それらの中から古い遺構をあげていく。①では藩内で現存最古の大川市小保の八幡神社神門があり、三橋町中山の熊野神社神門も最も古い遺構の一つである。②にはみやま市瀬高町長田の老松神社神門がある。①と②には18世紀の遺構が残る。③には八女郡黒木町田代の八龍神社神門、東蒲池の鹿島神社神門、④には吉富の八幡神社神門、大和町徳益の玉垂神社神門がある。柱の用い方と組物との関連性として、例えば、複雑な二手先出組はすべて円柱の場合のみに用いられること、中柱のみを円柱とする場合には、中柱をつなぐ材に地紋彫を施すことがある。また、すべて角柱の場合、組物がなく、簡素な造りとするものが多い。

なお、楼門は、出来町の天満神社にあり、火災に遭う前には三柱神社にも立派な楼門が建てられていた。

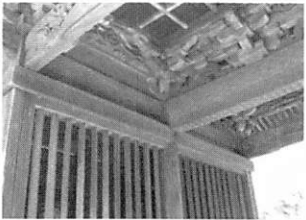
柳川市史編集委員 松岡高弘



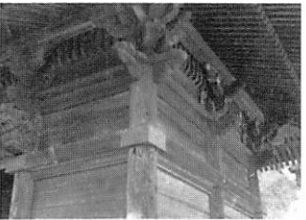
▲鹿島神社神門 入母屋造



▲熊野神社神門 切妻造



▲鹿島神社神門通路上部



▲玉垂神社神門軒廻り

あげまきのへこ 「やながわむかしばなし」柳川市観光パンフより



その昔、遠くの山の集落から、村人が柳川見物にやってきました。投宿した旅籠の夕食ではご馳走が並び、村人にとってはそのどれもが珍しい料理ばかりでした。女中さんに村人が料理の食べ方を尋ねると、

「吸い物のあげまきは、へこを取って食べて下さい」といきました。村人たちはその言葉に困り果てて悩んだあげく、しぶしぶ自分のへこ(ふんどし)をはずしてから食事を始めたそうです。

実は女中さんの言う「へこ」とは、貝に付いている薄く黒い膜のことで、村人たちは、それを「ふんどし」のことと勘違いしたのでした。

影印編

- 1 侗菴先生遺集
- 2 仕学斎先生文集
- 3 中山詩稿
- 4 望遠閣詩稿
- 5 緑猗園詩鈔
- 6 (1) 停雲稿
- 6 (2) 詩集
- 6 (3) 中秋賞月
- 6 (4) 詩会御巻物
- 6 (5) 黒崎詩稿
- 6 (6) 南郭詩選和韻集
- 7 如意八景同十二景
- 8 柳河藻
- 9 金蘭詩集

翻刻編

- 10 (1) 間菴遺稿
- 10 (2) 安東間菴詩集
- 10 (3) 安東間菴略伝
- 10 (4) 間菴詩舛附西婦賦
- 10 (5) 詩集
- 10 (6) 安東詩集
- 11 牧園茅山詩文集
- 12 此君泉詩文
- 13 岩屋懐古詩集

I 初期郡行政

- 郡役所・郡の範囲
- 郡役所達
- 町村連合会・町村組合会

II 郡制施行以降

- 組織・機構
- 参事会
- 郡会

III 統計資料 (別冊)

柳川市史を2冊刊行

■柳川文化資料集成第5集
「柳川の漢詩文集」(A4版、
620ページ、1500円)

江戸時代の柳川の人が作った漢詩集を23点収録。柳川藩での漢詩文を中心とした文学や学問の広がりがわかる1冊になっています。

■柳川市史史料編VI「山門郡行政・上」(A4版、778ページ、3500円)

明治11年から大正15年に県と町村の中間機構として地域行政を担った山門郡役所の関係史料100点を収録しています。

(問) 市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)

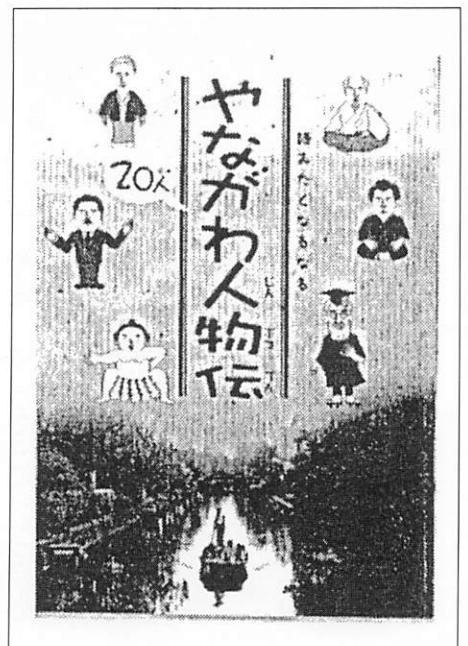


新刊

紹介

田中吉政、立花宗茂、安東省庵、田尻惣馬、立花玉蘭、西原一甫、雲龍久吉、立花吉岐、綿貫吉直、海老名弾正、岡田狐鹿、立花寛治、杉森シカ、武田千代三郎、藤村 作、北原白秋、長谷 健、壇 一雄、菅原杜子雄、木村緑平

1冊1,000円で販売(1人1冊まで)。問い合わせは柳川市生涯学習課文化係(☎0944-77-8832)まで



賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

広告募集

チラシ広告

対象は東京同窓会会員向けに製品・商品営業内容をPR、販売したい方。

○チラシ三千部を作成し(フォーム自由)事務局宛(裏表紙参照)送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。

○広告代金1一件につき5万円を賛助金として頂きます。

会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中!

1. 表紙絵・表紙用写真

2. 原稿(伝習館OBならダッデンヨカバンモ)

○テーマ自由(同窓会報にふさわしいもの)
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・絵手紙、書など

○字数制限なし(極力四〇〇字詰め(20×20)原稿用紙使用)
写真・絵・カット添付可

○表紙・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。

—原稿送付先—

〒344・0032

春日部市備後東8・8・32

伝習館東京同窓会 小野 善睦 行

☎・FAX 048・735・2431

編集後記

○おかげさまで第10号までこぎつけました。会員の皆様のご支援ご協力に深く感謝申し上げます。

○編集委員も老齢化がすすんでおり、「校正恐るべし」と肝に銘じてはいますが、ミスがありましたらご指摘ご叱正賜わりますようお願い致します。

○次号(第11号)表紙絵・写真募集中です。

○現在の編集委員は次の通りです。

小野 善睦(高2)

内山 秀生(高10)

永倉(跡部)素子(高10)

江崎 正直(高2)

副会長 松永 肅(高5)

原田(立花)万紗子(高13)

発行責任者 江崎正直

〒156・0043

東京都世田谷区松原3・39・

25・801



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込3丁目3-19 千鳥屋方

TEL 03(3915)0865 FAX 03(3918)8139

http://densyukan-tokyo.jp/

賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)

普通預金

口座番号 1073673

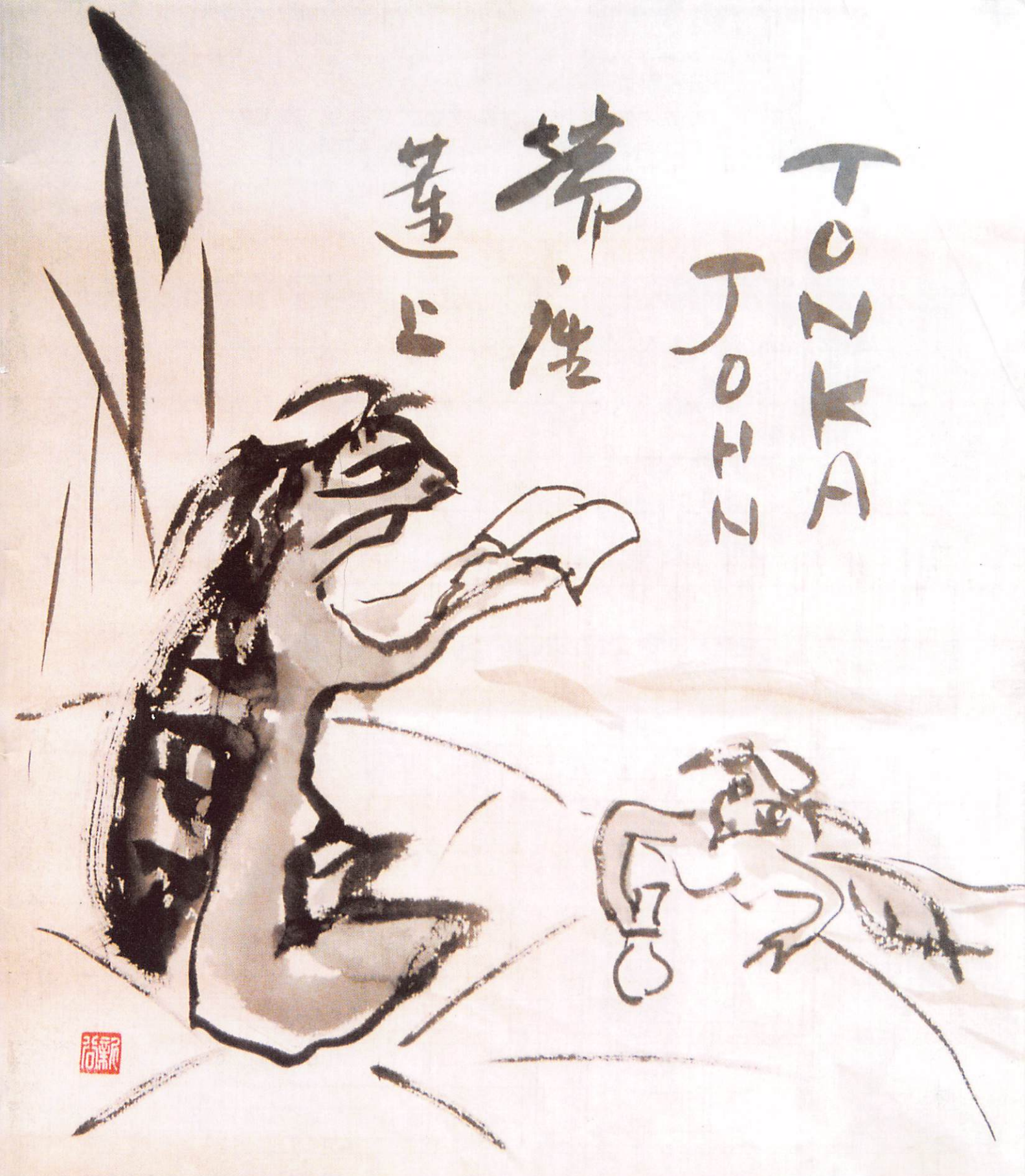
口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成21年10月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	第9回	石橋淑子(古沢)	同上	佐竹優子(池上)
同上	中野貞幸	同上	原田光紀	同上	吉村明恵
中学第49回		第10回	内山秀生	第24回	酒見和平
中学第50回		同上	永倉素子(跡部)	同上	笹子幸子(川津)
中学第51回	松田 含(星野)	第11回	北原 博	第25回	
中学第52回		同上	永尾弘行	第26回	
中学第53回	古賀和典	第12回	小野アケミ(岸川)	第27回	
同上	木下憲男	第13回	田中利道	第28回	吉開孝人
中学第54回	富重克巳	同上	尾田義昭	同上	中島眞二
中学第55回	江崎和夫	同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第29回	
同上	小泉祐一郎	第14回	石橋俊一	第30回	橋爪政男
中学第56回	鬼丸敏男	同上	吉田節子(堤)	同上	小野弘美(中山)
同上	成清良孝	第15回		第31回	池松利活
高女第45回	石橋佳香(石橋)	第16回	椎島正司	第32回	柴田雅秀
高校第1回	永江政勝	同上	安倍環江(松藤)	同上	一木享之介
同上	増尾義勝	同上	水澤昭子(田中)	同上	大山 恵(相浦)
第2回	石崎知見	第17回	宇木博巳	同上	守谷由佳(富重)
(会長)	江崎正直	同上	北島文之	同上	森 雅宣
(編集委員長)	小野善睦	同上	下吹越智佳子(横山)	第33回	廣松崇人
第3回	酒井清行	同上	藤木清勝	第34回	
第4回	荒井健之輔	同上	浦川邦憲	第35回	山口英治
同上	丸勢正夫	第18回	福山博彰	同上	橋本知彦
同上	渡邊喜亮	同上	十時理展	第36回	松藤 亘
第5回	岸 栄洋	第19回	芹川季代子(立花)	第37回	江口一元
(副会長)	松永 肅	第20回	高巢和登	第45回	浦 裕美
第6回	石橋 修	第21回	西原正道	第50回	河内慎治
同上	戸上軍治	同上	白谷政則	第51回	大曲由起子
同上(会計)	荻島直記	第22回	北原富美男	第59回	川口 惇
第7回	田中敬之助	第23回	坂本智臣		
同上	龍 弘道	同上	成田八重子(成田)		
第8回	樋口誠佑	同上	樋口貴美子(田上)		

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。



墨絵「河童」

作者 高3 新谷弘之氏

在学中は美術部・書道部に所属

出品歴

独立展（昭37年、38年）

福岡県展、西日本美術展、京展、その他グループ展

個展 銀座中央美術画廊（昭和46年、平成19年）

職歴

㈱三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）